



50

周年記念誌

大館北秋田退職校長会

2024年（令和6年）

表紙・裏表紙デザイン 木 村 伸（大館市在住）

表紙作品：「Recollections」（2023年作 アクリルガッシュほか O号）

退職してから、在職中おろそかにしていた自分の作品制作を再び始めている。作品づくりのための題材探しをしていた時に、作品制作に明け暮れていた大学時代のことをふと思い出した。専門専攻はデザインでシルクスクリーン印刷での作品づくりが主であったが、真っ先に思い浮かんだのは授業で学んだことのある津軽塗のことであった。様々な色の漆を塗り重ね、乾燥後に模様を研ぎ出していく伝統工芸の技法である。しかし、漆は高価であるし手に入りにくい。そこで、色を自由に操作できるアクリルガッシュ等に置き換えて試みている。「こんな感じにしたい」とイメージしながら下地をつくり色を塗り重ねるのであるが、研ぎ出しをすると意外な形や色が現れて不思議な画面になる。思いもよらない新しいものを生み出す楽しさを感じながら日々模索している。

稚拙な作品ではありますが、ご愛嬌ということで…。さて、皆様は今回の表紙作品を見たとき何が見えてきたでしょうか？

この度の退職校長会結成50周年へのお祝いの意を込めながら…

目 次

結成 50 周年を迎えて	大館北秋田退職校長会 会長 伊 勢 善 和 …… 2
先輩校長と後輩校長の深い繋がり	秋田県退職校長会 会長 伊 藤 栄 二 …… 3
結成 50 周年に敬意を	大館北秋田校長会 会長 武 田 俊 一 …… 4
50 年の歩み	…………… 5

会員の寄稿文

・ 秋日思うままに	今川 孝一 … 20	・ 値千金、最後の川は？！	高橋 善之 … 26
・ 私に、お星さまが見えない	小林 俊英	・ 毎日の習慣は、毎日のしあわせ	河田 和徳
・ 避難橋(?)再訪	佐藤 俊司	・ 時代の流れ	庄司 邦昭
・ 「花と絵と歌」のある暮らし	小坂 浩子 … 21	・ 今、NHK大河ドラマが面白い！	佐藤 和広 … 27
・ 大館・明治女子教育先覚三人	宮越 禎子	・ 家庭菜園をして思うこと	工藤 隆
・ 小さな生きがい	奥田 稔	・ コミュニケーション力	小松大二郎 … 28
・ もう 4 年	樋口 新平 … 22	・ 緑のカーテン	滝内 金悦
・ 俳句入門	佐藤 敬子	・ 全国デビュー	山田 俊逸
・ 医学の進歩に感謝して！	小笠原信子	・ 今、大館が面白い	佐藤 正好 … 29
・ この夏の思い出	小笠原友行 … 23	・ ダイバーシティ	小林 一彦
・ 地域の皆さんと楽しくやってマス	伊藤 明美	・ 親爺たちの旅	村上 光明
・ 僕の「美術巡礼の旅」	佐々木久隆	・ 短時間再任用最終年	村上 尚子 … 30
・ 第二の人生は絶景を求めて全国の峰々へ	米澤喜一郎 … 24	・ 新しい学びとの出会い	柴田 清香
・ スマホで遊んでいます	高橋 充	・ 安全・安心な時代を願い、緩やかに時の流れを楽しみながら	柴田 保
・ おめでとう体操日本	菅原 明雄		木下 隆 … 31
・ あれから 50 年	伊勢 善和 … 25	・ 日々発見	安部 芳範
・ 教え子の同級会	明石 勝美	・ シン・働く理由	伊藤 哲朗
・ アレクサンダー大王の末裔と出会った!?	辻 博幸	・ 初任地の田代冬季分校	

○新入会員の紹介

・ また新たな気持ちで……	北林 孝男 … 32	・ 校長職を終えて	鎌田 裕之 … 34
・ 校長職を終えて	松下 健	・ もう一度、楽しむ	福司登志子
・ 地域の住人として	出川 英章 … 33	・ 初任者の覚悟	庄司 保雄
・ 念願の山行	渡邊 政徳	・ 自転車を漕ぎながら	今川 拡 … 35
・ 子どもの成長をともに喜ぶ幸せ	花田 一雅	・ 変わらぬものと変わるもの	小林 秀雄
		・ 節目の年に当たって	佐藤 博志

結成 50 周年記念事業 記念式典・記念講演	…………… 36
編集後記・記念事業実行委員会	…………… 38
会員名簿	…………… 39



結成 50 周年を迎えて

大館北秋田退職校長会 会長 伊 勢 善 和

大館北秋田退職校長会は結成 50 周年を迎えました。この記念すべき 50 周年を迎えることができましたのも、これまで様々な形で支えてくださいました会員並びに関係者の皆様のご支援の賜物であり心より感謝申し上げます。

昭和 49 年 10 月 29 日、諸先輩方が尽力し、伊藤経雄会長の下、148 名の会員を擁し発足しました。会員は 300 名を超える時代もありましたが、児童生徒数の減少や市町村合併による学校の整理・統合、自然減と家族との生活のために他県に転居することなどより会員が減少し、現在は 222 名となっており、時代を感じざるを得ません。

発足時の昭和 49 (1974) 年は、小野田元少尉がフィリピンのルバング島で発見され帰国、佐藤栄作元首相がノーベル平和賞、ニクソン大統領がウォーターゲート事件で辞任などの史実があり、現在、いじめ問題などを抱えている宝塚では「ベルサイユのばら」が初演、カナダからの買収問題で揺れるセブン・イレブンのコンビニ 1 号店が開店しました。個人的には、希望に燃えて教職の道に足を踏み入れた年で、臨時講師として 1 年間に合川東小、扇田小、城西小の 3 つの学校に勤務し、子供たちと日々駆けずり回っていました。

大館北秋田退職校長会はこの 50 年間、様々な事業を通じ、着実な成長を遂げて毎年春には会は如何にあるべきかと問い直してまいりました。そして、現在の活動方針は、教育振興に寄与する、豊かな生きがいの実現に努める、特性をはぐくむ心の教育の支援に努める、会員相互の福利・厚生活動の推進、関係機関との連携に努めるの 5 つであります。

社会を取り巻く状況は加速度的に変化しており、OJT (企業内で行われる教育訓練)、SDGs (持続可能な社会)、well-being (個人や社会のよい状態) などの省略された横文字が教育用語としても取り入れられてきています。また、公務員の定年が延長され、役職定年は 60 歳ですが、定年は順次延長され、希望して認められれば 65 歳まで教員として勤務することができることになります。校長を辞めても教員として働き続ける人がたくさんおり、「退職していないのに退職校長会に」と入会するのを躊躇する方もおるかと思います。首都圏などでは校長としての再任用や公募による採用も行われているようで、これまでの調査等による実態把握を生かし、校長職のキャリアを生かす活動の場の確保などに努めてまいりたいと考えております。

私たちは、会の礎を築いた諸先輩方へ敬意を表するとともに次世代へ確実に襷を繋いでいくために、会の歴史の中で培ってきた挑戦を恐れない DNA を受け継ぎ、この変化をチャンスと捉え、不易と流行を見極め既存の枠組みや常識にとらわれることなく、これからも果敢に挑戦と変革を実施し、会の名称の変更なども模索しながら、行動する退職校長会として邁進してまいりたいと思っております。



先輩校長と後輩校長の深い繋がり

秋田県退職校長会 会長 伊 藤 栄 二

この度、大館北秋田退職校長会が結成 50 周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

貴会は、高度経済成長期に現職であった先輩方の熱意と努力により結成され、「ゆとり教育」の時代から今日に至るまで、半世紀にわたり活動を継続されてきました。その間、会員の皆様は、教育の正道を指し示し、学校経営者としての責務を全うしてこられました。そして退職後も、教育振興への熱い想いを胸に、現職校長や学校の応援団として、また教育専門家としての豊かな経験と確かな知見を地域に還元し続けてこられました。こうした活動が 50 年という長きにわたり続けられてきたことに、心から敬意を表します。

大館北秋田地区は、古くから教育研究が盛んな地域として知られています。平成 21 年には「秋田大学北秋田分校」が北秋田市に開設され、大学教員の派遣や地域への教育支援、地域の魅力発掘活動が行われています。また、平成 20 年には鷹巣小・中学校で「学力向上県民フォーラム」が開催され、公開授業やパネルディスカッションを通じて、子どもたちの学力向上や教育の未来について議論が深められました。平成 30 年には「学力向上フォーラム in 大館」が開催され、全国から訪れた教育関係者が「秋田の探究型授業」に触れ、感嘆の声が広がったと伺っております。これらの成果は、大館北秋田地区における教育への高い関心があってこそ実現できたものであり、先輩校長先生方が築かれてきた教育研究の歴史が結実した一つの現れといえるでしょう。

さて、県内では少子化の進行により、多くの学校が閉校を余儀なくされております。貴会が結成されて以降に閉校した学校を調べてみると、小学校は昭和 49 年の小沢田小折渡分校から令和 3 年の鷹巣南小まで 40 校、中学校は昭和 55 年の上川沿中から令和 2 年の鷹巣南中まで 7 校に上ります（秋田県閉校記念誌等資料目録 2021、秋田県教育協会）。皆様がかつて勤務された学校の中にも、既に閉校となってしまったものがあるかもしれません。50 年という歳月の流れの大きさを改めて感じざるを得ません。

しかし、時が移り変わっても、先輩校長と後輩校長の深い繋がりの中で受け継がれてきた大切なものがあります。それこそが、退職校長会という組織を支える礎であり、皆様の活動を通じて今も脈々と息づいているのではないのでしょうか。貴会では、伊勢善和会長のもと、220 名を超える会員が一丸となり、毎年秋の研修会や会報の発行に尽力されていると伺っております。昨年度は会報に寄稿された方が 60 名を超えたとのこと。これは、退職後も教育に対する熱意を絶やさずに貢献を続ける皆様の姿勢が、多くの会員に受け継がれている証であり、地域教育への強い志が息づいていることの現れと言えます。

結びに、大館北秋田退職校長会のさらなるご発展と、会員の皆様のますますのご健勝を心よりお祈り申し上げ、結成 50 周年に当たってのお祝いの言葉とさせていただきます。この度は、誠におめでとうございます。



結成 50 周年に敬意を

大館北秋田校長会 会長 武 田 俊 一

大館北秋田退職校長会が50周年を迎えられたこと、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。また、日頃より会員の皆様方には物心両面で大変お世話になっておりますこと、深く感謝申し上げます。私の方からは少しでも近年の学校を取り巻く状況や大館北秋田校長会のことについて触れさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症はインフルエンザと同類の扱いとなりましたが、マスクを外そうとしない児童生徒が未だに多数います。熊の市街地への出沒により、児童生徒は市教委から貸与された熊鈴をカバンに付けて登校しています。年々暑くなる夏、熱中症の対応にも慎重にならざるを得ません。増え続ける不登校の児童生徒、ICTを活用した魅力ある授業づくり、インクルーシブ教育の理念のもと個別の教育的ニーズや合理的配慮を踏まえた指導や支援、中学校部活動の地域クラブへの移行、教員の多忙化防止に向けた取り組みなどへの対応が迫られています。今までの経験値だけでは対応しきれない事案も時々起きています。

また、教員採用試験の倍率も低下しております。令和7年度の秋田県採用試験の倍率は小・中・高・特支・養教の全体で2.5倍程度、小学校に至っては1.0倍です。全国的に教師不足が報道されており、産・育・病休補充講師などはなかなか見付かりません。優秀な人材をいち早く確保するためにも、我々子どもの前にいる教職員が生き生きと働いていないと教職に魅力を感じないよ。と職員会議のたびに話していますが…。

そのような中、令和6年度の大館北秋田校長会の会員数は県立中学校、義務教育学校を含め校長数37名となっております。歴史をさかのぼり昭和32年度・33年度会員数が93名と最も多くの時代と比べますと寂しい限りであります。しかし、その分一致団結しながら先ほど挙げたような現代的な教育課題や脈々と続いてきた大北の教育について使命感をもって取り組んでいかなければならないと考えているところです。

歴史を振り返れば、諸先輩方もその時代ごとの教育的課題に対し常に教育に尽力され、校長会を拠り所に幾多の困難を乗り越えてきたと思います。また、退職校長会におかれましても現職校長のよきアドバイザーとして新しい教育を切り開いてきたことに深く感謝いたします。

結びになりますが、今後も健康にご留意され、我々現職校長を叱咤激励していただきますようお願い申し上げます。皆様のますますのご健勝をご祈念申し上げましてお祝いの言葉といたします。

50 年 の 歩 み

年度	月 日	事 項
昭和49年度	7. 25	秋田県退職校長会連合体結成代表者会議 秋田市 畠山 忠 日景久市 出席
	9. 20	大館市北秋田郡退職校長会結成世話人会 畠山 忠 伊藤経雄 日景久市 筒井勝治 工藤理紀治 事務局長 野口雄一
	9. 27	大館市北秋田郡退職校長会結成準備会 世話人及び地区代表
	10. 29	大館市北秋田郡退職校長会結成総会 大館市中央公民館 会則 予算案審議 会員数 148名 県届出数 80名 会費 600円 県納付金 300円 役員選出 会長 伊藤経雄 副会長 日景久市 渡辺勝蔵 監査 伊藤祐夫 佐々木陽二 黒沢市太郎 事務局 筒井勝治 工藤理紀治
昭和50年度	4. 24	昭和49年度会計監査 前期総会 決算、予算案審議 承認
	12. 3	後期総会 講演「ヨーロッパ諸国の社会教育を視察して」 講師 大館市中央公民館長 田面木敏夫氏 会員数 125名 県届出数 80名 会費 600円 県納付金 300円 この年より4月総会・懇親会、12月研修会・懇親会が定着
昭和51年度	4. 21	昭和50年度会計監査 総会・懇親会 決算、予算案審議 承認 会費値上げ 役員改選（全員留任）
	12. 6	研修会 今年度より80歳会員に長寿祝贈呈 祝賀を兼ねて懇親会実施 長寿祝 相馬良行氏（M25年生まれ） 横山勇助氏（M26年生まれ） 高清水勇助氏（M27年生まれ） 会員数 139名 県届出数 80名 会費 800円に改正 県納付金 300円
昭和52年度	4. 27	昭和51年度会計監査 総会・懇親会 決算、予算案審議 承認
	12. 7	研修会 講演「南米の旅」講師 小林 新氏 長寿祝 伊藤勇造氏（M30年生まれ） 会員数 129名 県届出数 80名 会費 800円 県納付金 300円
昭和53年度	4. 26	昭和52年度会計監査・総会・懇親会 決算、予算案審議 承認 会費値上げ 役員改選 会長 日景留治 副会長 日景久吉 渡辺勝蔵 監査 黒沢市太郎 工藤理紀治 土佐利門 事務局長 筒井勝治 事務局を月居学院に置く 会員数 135名 県届出数 80名 会費 1,000円に改正 県納付金 500円
	12. 13	研修会 映画会「不如帰」栗島すみ子作 弁士 吉田一雄氏 鳥潟耕蔵氏 長寿祝 該当者なし（M31年生まれ） 懇親会を行う
昭和54年度	4. 25	昭和53年度会計監査 総会・懇親会 決算、予算案審議 承認 役職員 前年度と同じ 会員数 130名 県届出数 80名 会費 1,000円 県納付金 500円
	12. 13	研修会 講演「中国視察」講師 宮越貞蔵氏 病気会員に会員有志の色紙を贈る 長寿祝 該当者なし（M32年生まれ） 懇親会を行う
昭和55年度	4. 26	昭和54年度会計監査 総会・懇親会 決算、予算案審議 承認 役職員 留任 会員数 140名 県届出数 80名 会費 1,000円 県納付金 500円
	12. 10	研修会 講演「誰にでも健康管理」（東北配電収録テープ）講師 竹腰美代子氏 長寿祝 中村直之助氏（M33年生まれ） 祝賀を兼ねて懇親会を行う
昭和56年度	4. 21	昭和55年度会計監査 総会・懇親会 決算、予算案審議 承認 会費値上げ 役職員 留任 会員数 151名 県届出数 80名 会費 1,500円 県納付金 800円
	12. 8	研修会 「青少年問題を探る」在学青少年指導員 浅野福造氏 北島景次氏 長寿祝 竹村直三氏 渡部俊男氏（M34年生まれ） 祝賀懇親会
昭和57年度	4. 23	昭和56年度会計監査・総会・懇親会 決算、予算案審議 承認 役員改選 会長 日景留治（留任） 副会長 千葉勝也 筒井勝治 監査 黒沢市太郎 工藤理紀治 土佐利門 事務局長 浅野福造 会員数 150名 県届出数 90名 会費 1,500円 県納付金 800円
	12. 10	研修会 会員より各自の健康管理を聞く 渡辺政太郎氏 渡辺勝蔵氏 長寿祝 河田太茂蔵氏（M35年生まれ） 祝賀懇親会

年度	月 日	事 項
昭和58年度	4. 27 11. 9	昭和57年度会計監査・総会・懇親会 決算、予算案審議 承認 役職員 前年度と同じ 会員数 150名 県届出数 130名 会費 1,500円 県納付金 800円 現職校長との合同研修会 鷹巣公民館 研究発表 現職校長 石井俊六氏（大館一中）「中学生の意識調査について」 退職校長 木村雄三氏（在学青少年指導員）「最近の生徒の動向について」 長寿祝 該当者なし（M36年生まれ）
昭和59年度	4. 25 12. 10	昭和58年度会計監査・総会・懇親会 決算、予算案審議 承認 会費値上げ 役員改選 会長 日景留治（留任） 副会長 千葉勝也 筒井勝治（留任） 監査 朝日了回 土佐利門 佐々木信三郎 事務局長 浅野福造 会員数 150名 県届出数 130名 会費 2,000円 県納付金 1,000円 大館市北秋田郡退職校長会結成10周年記念 「10年の歩み」発刊 長寿祝 二階堂善三氏 高橋金蔵氏（M37年生まれ） 祝賀懇親会
昭和60年度	4. 25 12. 23	昭和59年度会計監査・総会・懇親会 大館市中央公民館 決算、予算案審議 承認 役職員 前年度と同じ 会員数 160名 県届出数 130名 会費 2,500円 県納付金 1,100円 研修会 講話「中学校40周年の歩み」を中心として 渡辺勝蔵氏 高橋茂明氏 長寿祝 八木鱗三郎氏 畠山佐市氏 畠山 忠氏 石垣忠吉氏 久嶋悦朗氏 （M38年生まれ） 祝賀懇親会
昭和61年度	4. 27 9. 24 11. 6	昭和60年度会計監査・総会・懇親会（新入会員歓迎会） 大館市中央公民館 決算、予算案審議 承認 規約改正により顧問を置く（日景留治前会長） 役員改選 会長 筒井勝治 副会長 千葉勝也 浅野福造 監査 佐々木信三郎 朝日了回 土佐利門 事務局長 福岡 潔 会員数 180名 県届出数 140名 会費 2,000円 県納付金 1,100円 役員会 今年度より理事会を各地区持ち回りとして開催 阿仁町山村開発センター 現職校長との合同研修会（教育懇談会） 大館市中央公民館 研究主題「児童・生徒の現状と問題点」 現職校長 高田昭爾氏（大館南小）「最近の児童・生徒の動向」 退職校長 高清水清栄氏 「司法保護司から見た実態を語る」 長寿祝 北山金次郎氏 畠山清明氏 菅原富二氏 福島吉五郎氏 佐藤仁市郎氏 （M39年生まれ） 祝賀懇親会
昭和62年度	4. 28 4. 29 5. 20 9. 2 11. 3 12. 20	昭和61年度会計監査・総会・懇親会（新入会員歓迎会） 大館市中央公民館 決算、予算案審議 承認 県納付金値上げとなる 郡市は据え置き 役職員 前年度と同じ 但し、監査補充 木村雄三氏 会員数 220名 県届出数 140名 会費 2,000円 県納付金 1,300円 春の叙勲 高橋茂明氏 春日堅蔵氏 勲五等双光旭日章受章 全連退実態調査 生きがい調査104名 教育改革に対する提言52名 役員会 上小阿仁村沖田面若者センター 秋の叙勲 筒井勝治氏 勲五等双光旭日章受章 長寿祝 斎藤三蔵氏 渡辺政太郎氏 高橋脩蔵氏 岩沢定造氏 日景留治氏 石井七郎氏 渡辺勝蔵氏（M40年生まれ） 祝賀懇親会
昭和63年度	4. 23 9. 12 11. 3 12. 17 1. 7	理事会 昭和62年度決算書、新年度予算案承認 大館市中央公民館 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、予算案審議 承認 役員改選 全員留任 来年度より会費値上げ案（2,500円）を決議 会員数 195名 県届出数 150名 会費 2,000円 県納付金 1,300円 新入会員数 19名 東北退職校長会総会 筒井会長出席 秋田市さとみ温泉 秋の叙勲 中田昌二氏 勲五等双光旭日章受章 研修会 研究主題「世界に貢献できる国際人の育成」 大館市中央公民館 講演「本校の国際理解教育について」 有浦小校長 高橋清二氏 座談会 主題「国際化社会を語る」 司会者 浅野福造氏 パネラー 高坂勇治氏 小笠原 暁氏 山脇平太郎氏 三浦春美氏 長寿祝 富田准助氏 岩井政太郎氏 田村忠吾氏 鈴木寅美氏 佐林幸吉氏 （M41年生まれ） 祝賀懇親会 昭和天皇崩御され、平成と改元される
平成元年度	4. 21 4. 29 8. 3 11. 3	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 大館市中央公民館 会員数 220名 県届出数 160名 会費 2,500円 県納付金 1,300円 新入会員数22名 春の叙勲 戸田国入氏 勲五等瑞宝章受章 役員会 15周年記念事業について 合川町大野台ハイランド 秋の叙勲 清水直克氏 勲五等瑞宝章受章

年度	月 日	事 項
平成 元 年度	11. 30 12. 16	15周年記念誌完成 現職校長との合同研修会 主題「開かれた学校づくり」 大館市中央公民館 問題提起者 現職校長 畠山清輝氏（桂城小） 退職校長 加賀谷三郎氏 長寿祝 土門 信氏 佐藤謙之助氏 野口雄一氏 糸田玄三氏 成田久蔵氏 長崎佐太吉氏 本間四郎兵衛氏（M42年生まれ） 祝賀懇親会
平成 2 年度	4. 21 6. 4 8. 8 10. 15 11. 3 12. 18 3. 22	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算、会則改正（5条）承認 大館市中央公民館 役員改選 会長 浅野福造 副会長 長崎 久 石川光明 福岡 潔 事務局長 川井康司 会員数 231名 県届出数 170名 会費 2,500円 県納付金 1,300円 新入会員数 20名 会員名簿改訂版刊行計画 8月に名簿配布 役員会 講話「自治体がとりくむ諸問題」 鷹巣町長 出川礼一氏 鷹巣町中央公民館 県退職校長会研修会 発表「生きがい求めて」 仲谷安夫氏 秋田市協働大町ビル 秋の叙勲 藤島敏夫氏 勲五等双光旭日章受章 研修会 「生涯学習について」 話題提供 高松末治氏 三沢忠蔵氏 田村 茂氏 長寿祝 山田 勇氏 長岐準三氏 大塚謙治氏 筒井敬治氏 宮越貞蔵氏 長岡忠穂氏 永井多一氏 鈴木萬次郎氏 安保四方治氏（M43年生まれ） 祝賀懇親会 会計監査・三役会
平成 3 年度	4. 23 4. 29 8. 5 10. 16 11. 3 12. 11 3. 19	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 大館市中央公民館 会員数 240名 県届出数 201名 会費 2,500円 県納付金 1,300円 新入会員数 21名 春の叙勲 浅野福造氏 荒谷武夫氏 勲五等瑞宝章受章 役員会 講話「田代岳と長慶金山」 講師 戸嶋源三郎氏 田代町開発総合センター 県退職校長会研修会 意見発表 能代山本 大曲仙北 講話「本大学の特徴と日本教育の将来」 講師 ミネソタ州立大学機構秋田校学長 秋の叙勲 土佐隆二郎氏 勲五等瑞宝章受章 研修会 研究主題「高齢化社会の生き方」 祝賀懇親会 大館市中央公民館 体験発表 渡辺勝蔵氏 荒谷 浩氏 林 文子氏 長寿祝 加賀広治氏 奈良弥一郎氏 田山一郎氏 日景久市氏 小松原一郎氏 京 富太郎氏 朝日了回氏 藤島鉄男氏 湊 荒男氏（M44年生まれ） 会計監査・三役会
平成 4 年度	4. 21 8. 5 10. 16 11. 3 12. 11 3. 22	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 大館市中央公民館 会員数 251名 県届出数 212名 会費 2,700円 県納付金 1,500円 新入会員 21名 役員会 大葛小学校天体観測施設見学 講話 比内町長 大沢清二氏 比内町公民館 県退職校長会研修会 意見発表 鹿角 秋田河辺 横手平鹿 三井アーバンホテル秋田 講演「政界雑感」 週刊秋田社代表取締役 小畑伸一氏 秋の叙勲 三浦義一氏 勲五等瑞宝章受章 研修会 「学校週五日制の諸問題」 祝賀懇親会 大館市中央公民館 提言者 湊 正俊氏 近藤正彦氏 講話 山田信雄氏（北教育事務所社会教育アドバイザー） 長寿祝 若木富弥氏 小林幸之助氏 花岡秀太郎氏 松岡盛久氏（M45年生まれ） 会計監査・三役会
平成 5 年度	4. 21 5. 28 6. 10 6. 21 8. 6 10. 16 11. 3 12. 10 3. 22	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 大館市中央公民館 会員数 267名 県届出数 238名 会費 2,700円 県納付金 1,500円 新入会員 22名 県退職校長会総会・代議員会 秋田市協働大町ビル 会結成25周年について 生涯学習実践録の作成 シンガポール旅行 三役会 8月の役員会議について 12月の合同研修会について 県退職校長会事務局長会議 生涯学習実践録の具体的な推進 秋田市協働大町ビル 役員会 秋田職能短大見学 大館市中央公民館 12月の研修会について 生涯学習実践録の原稿提出者について 県退職校長会研修会 三井アーバンホテル秋田 講演「家族法」退職後の法律問題 弁護士 広嶋清則氏 本都市発表 畠山清輝氏「生涯学習について」 生涯学習実践録の原稿執筆 浅野 福岡 佐藤正 長崎 三沢忠 千葉 幸坂 大倉 石井俊 武石美 小嶋 佐藤正（阿仁）の各氏 秋の叙勲 田山義夫氏 勲四等瑞宝章受章 研修会 テーマ「生涯学習を語る」（私の生きがい） 大館市中央公民館 提言者 高橋禎三氏 大和政視氏 佐藤昭次郎氏 講話 小林繁春氏 長寿祝 泉 直友氏 田中徹雄氏 青木周蔵氏 工藤理紀治氏 千葉勝也氏 春日堅蔵氏（T2年生まれ） 祝賀懇親会 会計監査・三役会

年度	月 日	事 項
平成 6 年度	4. 22	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 大館市中央公民館 役員改選 会長 福岡 潔 副会長 北嶋景次 石川光明 川井康司 事務局長 田所宏太郎 会員数 274名 県届出数 243名 会費 2,700円 県納付金 1,500円 新入会員数 15名
	5. 31	県退職校長会総会・代議員会 秋田市協働大町ビル 生涯学習実践録の編集と完成、配本 東北地区退職校長会研修会秋田県開催
	6. 21	県退職校長会事務局長会議 秋田市協働大町ビル 生涯学習実践録の具体的な編集と配本 希望する会員に有料で配布する
	6. 28	大館市北秋田郡退職校長会結成20周年記念誌発行実行委員会発足 大館市中央公民館 原稿依頼の方針
	8. 2	役員会 上小阿仁中学校見学 上小阿仁村公民館 20周年記念式典と記念誌の発行、実行委員の承認
	10. 13	県退職校長会25周年記念研修会 三井アーバンホテル秋田 意見発表 能代山本 男鹿南秋 大曲仙北 講演「地方文化の裏表」 秋田市 無明會出版社社長 安保 甲氏
	10. 20	記念誌実行委員会 原稿編集 校正 割付け 大館市中央公民館
	11. 3	秋の叙勲 月居 泰氏 勲五等双光旭日章受章
	12. 2	郡市退職校長会20周年記念式典 祝賀会 大館市中央公民館 式典 長寿祝 斎藤和正氏 筒井勝治氏 伊藤秀正氏 高橋茂明氏（T 3 年生まれ） 祝賀会 ※会費値上げ案提案 臨時総会を含めて提案される（300円値上げ）
平成 7 年度	4. 25	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 大館市中央公民館 会員数 290名（内、名誉会員 7 名）県届出数 265名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 17名（大館5 鷹巣9 比内1 合川1 阿仁1）
	4. 29	春の叙勲 中嶋修三氏 勲五等双光旭日章受章
	5. 17	地区理事会 会費徴収 現職校長との合同研修会等について
	5. 30	県退職校長会総会・代議員会 秋田市協働大町ビル
	8. 1	役員会 県水産振興センター内水面試験池の見学 阿仁町ふるさと文化センター 現職校長との合同研修会について 講話 阿仁町長「熊牧場がご縁での日中交流」
	9. 27	退職校長会・現職校長会事務局打合せ 有浦小学校 要項作成 役割分担 発表者の依頼 案内状の発送について
	10. 13	県退職校長会秋季研修大会 実践発表 鹿角 南秋 湯沢雄勝 三井アーバンホテル秋田 講演「人生立ち止まって考える」 講師 あきた弁の劇作家 伊藤武三氏
	12. 4	大館市北秋田郡退職校長会・郡市校長会合同研修会 大館市中央公民館 開会行事 長寿者へ記念品贈呈（T 4 年生まれ） 菅原 保氏 安達順二郎氏 戸田国人氏 中田昌二氏
		研修会 発表者 現職校長 成田純一氏（大館南小） 退職校長 高橋正助氏 佐藤利吉氏
	3. 22	会計監査・三役会
平成 8 年度	4. 22	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 大館市中央公民館 役員改選 会員数 303名（内、名誉会員 9 名）県届出数 276名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 21名（大館11 鷹巣3 比内2 田代2 合川1 森吉1 阿仁1）
	5. 20	地区理事会 会費徴収 郡市役員会について 秋北ホテル
	5. 30	県退職校長会総会・代議員会 秋田市協働大町ビル
	8. 1	役員会 秋の研修会について 森吉山荘 講話「町長職一期をかえりみて」 講師 森吉町長 松橋久太郎氏
	10. 15	県退職校長会秋季研修大会 実践発表者 本郡市 小坂昭雄氏 三井アーバンホテル秋田 講演「社会批判の文学をめぐる」 バーナード・ショーの場合 講師 秋田美術工芸短期大学教授 小松元成氏
	11. 3	秋の叙勲 浜田 章氏 勲五等双光旭日章受章
	12. 4	研修会「心豊かに生きる道を求めて」 大館市中央公民館 発表者 小林孝四郎氏 松岡善則氏 長寿者へ記念品贈呈（T 5 年生まれ） 津村利視氏 芳賀忠美氏 相馬瑞郎氏 戸澤貞雄氏 西嶋順一氏
	3. 4	全国連合会より「賀詞」 糸田玄三氏 土門 信氏 佐藤謙之助氏 長崎佐太吉氏
	3. 22	監事会・三役会 会計監査と新年度の準備
平成 9 年度	4. 23	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 大館市中央公民館 会員数 305名（内、名誉会員13名）県届出数 289名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 15名（大館6 鷹巣2 比内1 田代3 合川2 森吉1）
	4. 29	春の叙勲 木村 清氏 勲四等瑞宝章受章 山脇平太郎氏 勲五等双光旭日章受章
	5. 20	地区理事会 会費徴収 郡市役員会について 秋北ホテル
	5. 30	県退職校長会総会・代議員会 会則の一部改正を行う 秋田市協働大町ビル
	8. 6	役員会 秋の研修会の計画等について セントラル合川・平川旅館 講話「町行政等について」 講師 合川町長 金田陽太郎氏

年度	月 日	事 項
平成9年度	10. 15	県退職校長会秋季研修大会 三井アーバンホテル秋田 講演「客員教授としてミネソタ見た日本」 講師 秋田大学名誉教授 三浦順治氏
	12. 5	研修会「心豊かに生きる道を求めて」 大館市中央公民館 司会者 町井満行氏 発表者 黒澤正吾氏 花田保男氏 長寿者へ記念品贈呈（T 6 年生まれ） 高坂八衛氏 土佐隆二郎氏
	3. 2	全国連合会より「賀詞」
		山田 勇氏 大塚謙治氏 宮越貞蔵氏 永井多一氏 鈴木萬次郎氏 片岡忠穂氏
	3. 26	監事会・三役会 会計監査と新年度の準備
平成10年度	4. 28	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 大館市中央公民館 会員数 303名（内、名誉会員15名） 県届出数 301名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 21名（大館8 鷹巣7 比内3 合川1 森吉2） 役員改選 会長 川井康司 副会長 高坂勇治 佐々木元夫 畠山清輝 監事 松下 充 山田信雄 戸嶋弘文 事務局長 白根敏夫
	4. 29	春の叙勲 佐藤秀男氏 勲五等双光旭日章受章
	5. 20	地区理事会 会費徴収 郡市役員会について
	5. 29	県退職校長会総会・代議員会 秋田市協働大町ビル
	7. 30	役員会 秋の研修会の計画等について 鷹巣阿仁広域交流センター 現職校長会との合同研修会の検討 伊勢堂岱遺跡、秋田北空港視察
	10. 15	県退職校長会秋季研修大会 三井アーバンホテル秋田 講演「北村西望父子と私」 講師 秋田県建築士会会長 中村 豪氏
	11. 21	現職・退職校長会合同研修会 司会者 畠山哲雄氏 大館市中央公民館 提言者 現職校長 猪股興祐氏（城南小） 退職校長 松本幸三氏 三浦謙蔵氏
	12. 16	地区理事会 本会結成25周年記念事業について
	2. 2	全国連合退職校長会より「賀詞」 田山一郎氏 藤嶋鉄男氏
	3. 16	監事会・三役会 会計監査と新年度の準備
平成11年度	4. 26	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 大館市中央公民館 会員数 313名（内、名誉会員15名） 県届出数 290名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 8 名（大館4 鷹巣2 阿仁1 森吉1）
	5. 20	結成25周年記念事業実行委員会（午前） 大館市中央公民館
		地区理事会 結成25周年記念事業記念誌編集委員会（午後）
	5. 28	県退職校長会総会・代議員会 秋田市協働大町ビル 「教育の日」の制定について、決議文起草委員会を開く
	8. 10	役員研修会 小畑勇二郎記念館 グリアス田代視察 たしろ温泉ユップラ 講話「田代町政について」 講師 田代町長 吉田光明氏 会議 結成25周年記念事業についての検討・決定
	10. 15	県退職校長会結成30周年記念式典・祝賀会 三井アーバンホテル秋田 講演「身近な植物成分と薬膳」 講師 秋田大学名誉教授 安倍信夫氏
	12. 5	大館市北秋田郡退職校長会結成25周年記念式典・祝賀会 記念誌発行 大館市中央公民館 長寿者へ記念品贈呈（T 8 年生まれ） 清水直克氏 浅野福造氏 野呂 弘氏 記念講演「食生活と健康」 講師 小松内科胃腸科医院 院長 小松良彦氏
	2. 10	記念事業実行委員会 まとめと反省 大館市中央公民館
	3. 24	監事会・三役会 会計監査と新年度の準備 大館市中央公民館
平成12年度	4. 26	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 大館市中央公民館 会員数 306名（内、名誉会員12名） 県届出数 280名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 8 名（大館4 鷹巣2 森吉1 合川1） 役員改選 会長 川井康司 副会長 佐々木元夫 仲谷安夫 畠山清輝 監事 山田信雄 戸嶋弘文 柏田一雄
	4. 29	春の叙勲 柴田邦二氏 勲四等瑞宝章受章
	5. 31	県退職校長会総会・代議員会 川井康司会長が役員改選で全国監事 秋田市協働大町ビル
	8. 1	役員研修会 比内町福祉保健総合センター 役場庁舎視察 講演講師 比内町長 大澤清治氏
	10. 11	東北地区退職校長会協議会 発表者 畠山清輝氏「教育の日」について
	10. 20	県退職校長会秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 発表者 高橋禎三氏 発表題「たかはし文庫」の経営について 講演「秋田史点描」 講師 前秋田大学学長 新野直吉氏
	11. 3	秋の叙勲 川井康司氏 勲五等双光旭日章受章
	12. 4	研修会 大館市中央公民館 講演「介護保険について」 講師 大館市福祉事務所長 佐藤 勇氏 長寿者へ記念品贈呈 村田郁三氏 木村雄三氏 三澤孝一氏（T 9 年生まれ）
	3. 12	監査会・三役会 会計監査 新年度の準備 大館市中央公民館
	3. 19	全国連合退職校長会長より「賀詞」 泉 直友氏 田中徹雄氏 青木周蔵氏

年度	月 日	事 項
平成13年度	4. 26	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 大館市中央公民館 会員数 307名（内、名誉会員12名）県届出数 280名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 9名（大館4 鷹巣3 田代1 阿仁1）
	4. 29	春の叙勲 仲谷安夫氏 勲五等双光旭日章受章
	5. 31	県退職校長会総会・代議員会 秋田市協働大町ビル
	6. 30	高齢者叙勲 田中徹雄氏 勲五等瑞宝章受章
	8. 1	役員研修会 桂城短大の施設視察 秋田桂城短期大学 講演講師 秋田桂城短期大学 学長 宮城一男氏
	10. 20	県退職校長会秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 講演「風景を読む」講師 秋田経済法科大学 前学長 井上隆明氏
	11. 3	秋の叙勲 永井隆一氏 勲四等瑞宝章受章
	11. 17	現職・退職校長会合同研修会 大館市中央公民館 問題提起者 現職校長 米川重修氏（鷹巣小） 退職校長 佐藤利吉氏 蔦谷睦雄氏 長寿者へ記念品贈呈（T10年生まれ） 後藤照三郎氏 田山義夫氏 神成正一氏 佐藤俊男氏 三浦義一氏
	1. 29	高齢者叙勲 斎藤和正氏 勲五等瑞宝章受章
	3. 19	全国連合退職校長会長より「賀詞」 斎藤和正氏 伊藤秀正氏 高橋茂明氏
	3. 24	監査会・三役会 会計監査 新年度の準備 大館市中央公民館
平成14年度	4. 23	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 大館市中央公民館 会員数 309名（内、名誉会員14名）県届出数 284名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 11名（大館5 鷹巣2 比内1 田代2 阿仁1） 役員改選 会長 畠山清輝 副会長 佐々木元夫 戸嶋弘文 白根敏夫 監事 山田信雄 柏田一雄 伊藤保之 事務局長 町井満行
	5. 20	地区理事会 会費徴収 郡市役員会について
	5. 30	県退職校長会総会・代議員会 秋田市協働大町ビル
	8. 2	役員研修会 上小阿仁中学校視察 講演 上小阿仁村村長 北林孝市氏 上小阿仁村役場
	10. 17	県退職校長会秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 講演「退職後の人生設計」講師 秋田公立美術工芸短期大学学長・作家 石川 好氏
	12. 2	研修会 発表者 中嶋正三氏 藤嶋 新氏 大館市中央公民館 長寿者へ記念品贈呈（T11年生まれ） 達子啓多氏 阿部盛雄氏 月居 泰氏 後藤惣一郎氏 佐藤富雄氏 成田節治氏
	3. 24	監査会・三役会 会計監査 新年度の準備 大館市中央公民館
平成15年度	4. 22	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 大館市中央公民館 会員数 311名（内、名誉会員14名）県届出数 288名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 4名（大館2 鷹巣1 阿仁1）
	4. 29	春の叙勲 松岡三雄氏 勲五等双光旭日章受章 惠比原 脩氏 勲五等瑞宝章受章
	5. 20	地区理事会 会費徴収 郡市役員会について
	5. 30	県退職校長会総会・代議員会 秋田市協働大町ビル
	8. 1	役員研修会 大阿仁小学校視察 講演講師 阿仁町長 濱田 章氏 阿仁町打当温泉
	10. 17	県退職校長会秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 講演「東北大学学長に就任して 偶感」講師 東北大学学長 吉本高志氏
	11. 3	秋の叙勲 山田信雄氏 瑞宝双光章受章
	12. 4	研修会 発表者 森岡 昭氏 伊藤 武氏 大館市中央公民館 長寿者へ記念品贈呈（T12年生まれ） 佐藤忠昌氏 木村弘一氏 工藤貞一氏 中嶋修三氏 北林孝市氏
	3. 1	高齢者叙勲 芳賀忠美氏 瑞宝双光章受章
	3. 12	監査会・三役会 会計監査 新年度の準備 大館市中央公民館
	3. 19	全国連合退職校長会長より「賀詞」 津村利視氏 芳賀忠美氏
平成16年度	4. 25	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 大館市中央公民館 会員数 313名（内、名誉会員12名）県届出数 289名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 13名（大館9 鷹巣3 阿仁1） 役員改選 会長 畠山清輝 副会長 戸嶋弘文 白根敏夫 佐藤俊雄 監事 柏田一雄 伊藤保之 小林俊英
	4. 29	春の叙勲 高橋重敏氏 瑞宝双光章受章
	5. 21	県退職校長会総会・代議員会 秋田市協働大町ビル
	8. 2	役員研修会 森吉山ダムエ事現場視察 森吉町役場 講話「首長の日常」講師 森吉町長 松橋久太郎氏
	10. 14	県退職校長会秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 発表者 渡辺次男氏「国指定天然記念物長走風穴高山植物群落の体験学習について」 講話「水のはなし」講師 秋田大学名誉教授 徳田 弘氏 生涯学習実践録第3集「生きがい求めて」発行 原稿執筆者 田村茂勝氏 三浦謙蔵氏 渡部稔氏 伊藤武氏 小野寺憲夫氏 蔦谷睦雄氏

年度	月 日	事 項
平成16年度	11. 3	秋の叙勲 柏田一雄氏 瑞宝双光章受章 赤石隆夫氏 瑞宝双光章受章
	12. 5	結成30周年記念式典 現職・退職校長会合同研修会 祝賀会 記念誌発行 秋北ホテル 式典 長寿者へ記念品贈呈（T13年生まれ） 木村 清氏 谷川原勝之氏 武田政二郎氏 吉岡本三郎氏 辻 欣氏 記念講演「命の大切さを見つめて」 講師 日蓮宗住職 能代病院内科医師 秋田県精神保健福祉協会能代支部長 柴田寛彦氏 秋北ホテル
	3. 26	監査会・三役会 会計監査 新年度の準備
平成17年度	4. 25	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 秋北ホテル 会員数 312名（内、名誉会員9名）県届出数 290名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 10名（大館6 比内1 鷹巣1 森吉1 合川1） 出席者 135名
	4. 29	春の叙勲 小川四朗氏 瑞宝双光章受章
	5. 20	県退職校長会総会・代議員会 秋田市協働大町ビル
	8. 2	役員研修会 合川新生園視察 合川町セントラル合川 講話「北の風土にポエジーを」 講師 太平寺住職 亀谷健樹氏
	10. 21	県退職校長会秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 講演「私の教育研究過去・現在」 講師 秋田県立大学長 鈴木昭憲氏
	11. 3	秋の叙勲 山口 進氏 瑞宝双光章受章
	11. 12	「あきた教育の日」制定推進大会 会長外9名参加 秋田市青少年交流センター 講演「『あきた教育の日』に期待する」 講師 文科省官房審議官 板東久美子氏
	11. 28	研修会 参加者 101名 秋北ホテル 提言者 高橋重敏氏「障害児教育の啓発と教育現場への支援活動について」 提言者 成田純一氏「退職後に見えてきたもの ～不登校生の指導員・子どもの人権専門委員として～」 長寿者へ記念品贈呈（T14年生まれ） 宮館 毅氏 竹村芳雄氏 藤垣満男氏 野口栄造氏 大和政規氏 山脇平太郎氏 小笠原曠氏 三澤史郎氏 高坂勇治氏 飛沢輝文氏 志渡 博氏 濱田 章氏 原田新八郎氏
	3. 25	監査会・三役会 会計監査 新年度の準備 秋北ホテル
平成18年度	4. 24	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 会則一部改正 会員数 306名（内、名誉会員7名）県届出数 290名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 6名（大館2 田代1 鷹巣3） 出席者 133名 秋北ホテル 役員改選 会長 白根敏夫 副会長 町井満行 伊藤保之 佐藤俊雄 監事 伊藤 武 小林俊英 宮崎博文 事務局長 澤井邦彦
	5. 18	県退職校長会総会・代議員会 秋田市協働大町ビル
	8. 1	役員研修会 北秋田市交流センター 講話「退職後の健康増進」 講師 北秋田市長 岸部 陸氏
	10. 5	東北地区退職校長会協議会 理事会 総会 秋田市メトロポリタンホテル
	10. 13	県退職校長会秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 講演「秋田高専の現状と課題」 講師 秋田工業高等専門学校長 島田正彦氏
	11. 3	秋の叙勲 金森嘉次郎氏 瑞宝双光章受章
	11. 11	第2回「あきた教育の日」制定推進大会 会長外6名参加 秋田市文化センター 実践発表「健全育成」のための大人と子どもの交流 講演「まず、大人が自信をもとう」 講師 作家 西木正明氏
	11. 27	研修会 会報 創刊号発行 参加者 102名 秋北ホテル 提言者 金 新佐久氏「この手この歌を、みんなのために使いたい」 提言者 宮越禎子氏「障害者自立支援法の波紋」 長寿者へ記念品贈呈（T15年・S元年度生まれ） 高橋禎三氏 中嶋孫二郎氏 吉成誠一氏 富樫 勇氏 五十嵐定義氏 高田昭爾氏 兎澤光明氏 川井康司氏 橋本維夫氏 伊藤昭二郎氏 伊藤勇一氏 高松末治氏 三沢忠蔵氏 佐藤 章氏 細田松太郎氏 大倉慶治氏 上杉政吉氏
	3. 26	監査会・理事会 会計監査 新年度の準備 秋北ホテル
平成19年度	4. 23	理事会 総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 秋北ホテル 会員数 311名（内、名誉会員8名）県届出数 290名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 10名（大館4 鷹巣4 阿仁2） 出席者 128名
	4. 29	春の叙勲 町井満行氏 瑞宝双光章受章
	5. 18	県退職校長会総会・代議員会 秋田市協働大町ビル
	7. 1	高齢者叙勲 野呂 弘氏 瑞宝双光章受章
	8. 2	理事会・役員研修会 小畑勇二郎記念館等視察 田代ユップラ 講演「小畑勇二郎の生涯について」 講師 元田代町長 藤田三司栄氏
	10. 19	県退職校長会秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 講演「大学で過ごした50年」 講師 秋田大学学長 三浦 亮氏
	11. 11	第3回「あきた教育の日」制定推進大会 会長外5名参加 秋田市文化センター

年度	月 日	事 項
平成19年度	12. 1	現職校長との合同研修会 会報第2号発行 参加者 147名 秋北ホテル 発表者 城西小学校長 菅原明雄氏「地域と融合したコミュニティスクールについて」 発表者 菅原準一氏「子どもが変わった一昔と今の比較で」 長寿者へ記念品贈呈（S2年度生まれ）大槻 一氏 斎藤久志氏 柴田次郎氏 伊藤礼次郎氏 日景久吉氏 五十嵐 清氏 佐々木元夫氏 佐々木重光氏 佐藤正明氏 伊藤敬悦氏 庄司チエ氏 佐藤昭二郎氏 佐藤二郎氏 松岡三雄氏 山田慎八郎氏
	3.26	監査会・理事会 会計監査 新年度の準備 秋北ホテル
平成20年度	4.21	総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 秋北ホテル 会員数 311名（内、名誉会員 6名）県届出数 295名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 9名（大館4 比内1 鷹巣3 合川1） 出席者 126名 役員改選 会長 白根敏夫 副会長 町井満行 佐藤俊雄 高橋忠俊 監事 小林俊英 五十嵐寛一 宮崎博文
	4.29	春の叙勲 白根敏夫氏 瑞宝双光章受章
	5.20	県退職校長会総会・代議員会 秋田市協働大町ビル
	5.27	高齢者叙勲 三沢孝一氏 瑞宝双光章受章
	7.29	役員研修会 共生センターと工房視察 プルミエ比内 講演「民謡と健康」 講師 秋田県民謡協会 高橋貫治氏
	10.17	県退職校長会秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 発表者 笹木政美氏 発表題「環境浄化と農業」 講演「グローバル化時代の教育」 講師 国際教養大学学長 中嶋嶺雄氏
	11. 4	「あきた教育の日」制定記念フォーラム 会長外3名参加 秋田県庁
	12. 1	研修会 会報第3号発行 参加者 113名 秋北ホテル 発表者 栗田修六氏「介護サービスと老人福祉施設」 発表者 秋元哲夫氏「子どもと高齢者の安全を守る会」の活動を企画して 長寿者へ記念品贈呈（S3年度生まれ）石戸谷芳郎氏 二階堂邦文氏 佐藤昭雄氏 荒谷 浩氏 庄司鶴雄氏 澤口禮二氏 山本陽一氏 田所宏太郎氏 田村茂勝氏 木越信男氏 仲谷安夫氏 阿部達雄氏 高田政男氏 武石美作氏 北村久雄氏 佐藤一巳氏
	3.26	監査会・三役会 会計監査 新年度の準備 秋北ホテル
平成21年度	4.20	総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 ホテルクラウンパレス秋北 会員数 310名（内、名誉会員13名）県届出数 290名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 8名（大館4 田代1 鷹巣3） 出席者 118名
	4.29	春の叙勲 佐藤忠信氏 瑞宝双光章受章
	5.20	県退職校長会総会・代議員会 秋田市協働大町ビル
	7.29	役員研修会 講話「大館市の展望と課題」大館市副市長 吉田光明氏 田代ユップラ 結成35周年記念事業実行委員会・記念誌編集委員会
	10.23	県退職校長会結成40周年記念式典・第31回秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 式典で白根敏夫氏に感謝状が贈呈される 記念講演「秋田県立大学は今…」 秋田県立大学理事長・学長 小林俊一氏
	11. 3	秋の叙勲 松田孫明氏 瑞宝双光章受章
	11.30	結成35周年記念式典・祝賀会 記念誌発行 ホテルクラウンパレス秋北 長寿者へ記念品贈呈（S4年度生まれ）岩崎清三氏 武石 弘氏 成田治郎氏 浅利幸夫氏 松下 充氏 畠山哲雄氏 金森嘉次郎氏 恵比原 脩氏 嶺脇 勉氏 佐藤昭次郎氏 佐々木 茂氏 庄司乙彦氏 記念講演「右肩下がりが続く地域の現状を考える」 講師 北秋田地域振興局長 長岐哲行氏
	12.17	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈 達子啓多氏 後藤惣一郎氏 阿部盛雄氏
	2. 1	高齢者叙勲 達子啓多氏 後藤惣一郎氏 瑞宝双光章受章
	3.26	会計監査 理事会 新年度の準備 会報第4号発行 ホテルクラウンパレス秋北
平成22年度	4.26	総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 ホテルクラウンパレス秋北 会則の一部改正（第5条副会長4名に増員） 会員数 308名（内、名誉会員14名）県届出数 290名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 9名（大館3 鷹巣2 合川1 森吉2 上小阿仁1） 出席者 126名 役員改選 会長 白根敏夫 副会長 成田富蔵 宮越禎子 高橋忠俊 清野宏隆 監事 小林俊英 五十嵐寛一 宮崎博文
	4.29	春の叙勲 渡部 稔氏 瑞宝双光章受章 庄司捷雄氏 瑞宝小綬章受章
	5.20	県退職校長会 理事会・総会 秋田市協働大町ビル
	8. 2	理事会・役員研修会 県総会報告 事業計画審議 森吉ダム視察 北秋田市鮎センター
	10.21	県退職校長会第32回秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 講演「自動車用クリーン燃料の研究」 秋田工業高等専門学校 校長 山田宗慶氏
	11. 3	秋の叙勲 清野宏隆氏 瑞宝小綬章受章

年度	月 日	事 項
平成22年度	11. 27	現職校長との合同研修会 会報第5号発行 出席者97名 現職47名 ホテルクラウンパレス秋北 長寿者へ記念品贈呈（S5年度生まれ） 永井隆一氏 山田信雄氏 畠山清輝氏 川手純夫氏 乳井昭三氏 船山次男氏 佐藤 弘氏 近藤 正氏 山岡多郎右エ門氏 千葉茂男氏 赤石隆夫氏 小林 實氏 小嶋敏朗氏 研修会 発表者 現職 米内沢小学校長 佐藤高義氏 「意識を高め実践的な態度を育てる環境教育へのアプローチ」 発表者 比内地区 和田克郎氏「丸付け先生」を主に
	1. 21	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈 佐藤忠昌氏 中嶋修三氏 北林孝市氏
	1. 28	高齢者叙勲 佐藤忠昌氏 瑞宝双光章受章
	3. 25	会計監査 理事会 新年度の準備 ホテルクラウンパレス秋北
平成23年度	4. 23	総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 ホテルクラウンパレス秋北 会員数 297名（内、名誉会員13名）県届出数 277名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 5名（大館1 比内1 田代1 鷹巣2） 出席者 122名
	4. 29	春の叙勲 小林俊英氏 瑞宝双光章受章
	5. 19	県退職校長会 理事会・総会 秋田市協働大町ビル
	7. 14	県退職校長会 郡市会長・事務局長合同の会 秋田市協働大町ビル
	8. 1	理事会・役員研修会 県総会報告 事業計画審議 国際情報学院中・高視察 ユップラ
	10. 20	県退職校長会第33回秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 講演「秋田大学 これまでの実績、これからの取組み ～秋田に対して、何ができるか～」 講師 秋田大学学長 吉村 昇氏
	11. 2	秋の褒章 武田政二郎氏 藍綬褒章受章
	11. 3	秋の叙勲 仲澤鋭蔵氏 瑞宝小綬章受章
	11. 28	研修会 会報第6号発行 出席者99名 ホテルクラウンパレス秋北 長寿者へ記念品贈呈（S6年度生まれ） 田中 勇氏 佐藤 正氏 工藤正明氏 小沢恭子氏 中嶋正三氏 白根敏夫氏 日景 健氏 真崎喜八氏 小林孝四郎氏 千葉克一氏 小川四朗氏 佐藤利吉氏 小浜光二氏 戸嶋弘文氏 伊藤四郎氏 松岡善則氏 研修会 発表者 大館地区 藤田淑幸氏「マジックで人生を楽しませる生きがいつくり」 阿仁地区 石川久美氏「異業種への参入」～道の駅「あに」直売会に加入して～
	12. 19	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈 谷川原勝之氏 武田政二郎氏 宮館 毅氏 吉岡本三郎氏 飛沢輝文氏
	3. 26	会計監査 理事会 新年度の準備 ホテルクラウンパレス秋北
平成24年度	4. 26	総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 ホテルクラウンパレス秋北 会員数 294名（内、名誉会員16名）県届出数 272名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 7名（大館6 比内1） 出席者 114名 役員改選 会長 佐藤忠信 副会長 成田富蔵 宮越禎子 高橋忠俊 清野宏隆 監事 小林俊英 五十嵐寛一 宮崎博文
	5. 17	県退職校長会 理事会・総会 秋田市協働大町ビル
	7. 12	県退職校長会 郡市会長・事務局長合同の会 秋田市協働大町ビル
	8. 1	高齢者叙勲 吉岡本三郎氏 瑞宝双光章受章
	8. 1	理事会・役員研修会 北秋田市打当温泉 県総会報告 事業計画審議 阿仁郷土文化保存伝承館視察
	9. 1	高齢者叙勲 谷川原勝之氏 瑞宝双光章受章
	10. 11	東北地区退職校長会協議会（～12日） 秋田温泉さとみ
	10. 25	県退職校長会第34回秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 講演「フクシマは、今」 福島県公立学校退職校長会 会長 車田喜宏氏
	11. 2	秋の褒章 佐藤昭二郎氏 藍綬褒章受章
	11. 3	秋の叙勲 佐藤郁生氏 瑞宝双光章受章
	11. 26	研修会 会報第7号発行 出席者98名 ホテルクラウンパレス秋北 長寿者へ記念品贈呈（S7年度生まれ） 森岡 昭氏 田畑耕造氏 工藤 繁氏 福司有一氏 谷川原勝弥氏 渡部 稔氏 片岡春雄氏 河田澄夫氏 福岡 清氏 高橋重敏氏 成田豊一氏 三浦謙蔵氏 研修会 発表者 鷹巣地区 高橋重敏氏「障害児教育支援20年を振り返って」 発表者 比内地区 千葉克一氏「先輩の足跡を辿る古文書勉強」
	1. 20	全国連合退職校長会より上寿者へ寿詞の贈呈 田中徹雄氏
	1. 20	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈 湊 正俊氏 志渡 博氏 高坂勇治氏 高橋禎三氏 吉成誠一氏
	3. 1	高齢者叙勲 宮館 毅氏 飛沢輝文氏 瑞宝双光章受章
	3. 25	会計監査 理事会 新年度の準備 ホテルクラウンパレス秋北

年度	月 日	事 項
平成 25 年度	4. 22	総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 ホテルクラウンパレス秋北 会員数 283名（内、名誉会員20名）県届出数 258名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 5名（大館2 比内1 鷹巣2） 出席者111名
	5. 16	県退職校長会 理事会・総会 秋田市協働大町ビル
	7. 1	高齢者叙勲 志渡 博氏 瑞宝双光章受章
	7. 11	県退職校長会 郡市長・事務局長合同の会 秋田市協働大町ビル
	8. 1	理事会・役員研修会 たしろ温泉ユップラ 県総会報告 事業計画審議 廃校舎利用旧山田小学校大館生ハム工場視察
	10. 1	高齢者叙勲 高坂勇治氏 瑞宝双光章受章
	10. 28	県退職校長会第35回秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 講演「日本の英語教育を巡る議論を冷静に考える」 県教育委員会教育長 米田 進氏
	11. 30	現職校長との合同研修会 会報第8号発行 出席者140名（内、現職42名） 長寿者へ記念品贈呈（S 8年度生まれ） ホテルクラウンパレス秋北 斎藤 智氏 柏田一雄氏 成田 健氏 渡辺道朗氏 近藤正彦氏 佐藤博行氏 藤田淑幸氏 松本幸三氏 成田 高氏 小坂昭雄氏 伊藤保之氏 三浦多加稔氏 研修会 発表者 現職 長木小学校長 青柳正隆氏 「子どものスポーツ環境の充実を目指す小学校運動部活動の社会体育化」 発表者 比内地区 佐藤 弘氏「私が歩んできた道～好奇心こそ活動の原動力～」
	1. 20	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈 上杉政吉氏 富樫 勇氏 高松末治氏 細田松太郎氏 大倉慶治氏 五十嵐定義氏 川井康司氏 橋本維夫氏 伊藤昭二郎氏
	3. 24	会計監査 理事会 新年度の準備 ホテルクラウンパレス秋北
	3. 28	高齢者叙勲 中嶋孫二郎氏 吉成誠一氏 瑞宝双光章受章
平成 26 年度	4. 21	総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 ホテルクラウンパレス秋北 会員数 282名（内、名誉会員25名）県届出数 252名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 9名（大館6 鷹巣3） 出席者111名 役員改選 会長 佐藤忠信 副会長 宮越禎子 清野宏隆 澤井邦彦 小林 茂 監事 小林俊英 五十嵐寛一 宮崎博文 事務局長 菅原明雄
	4. 29	春の叙勲 大道政敏氏 瑞宝小綬章受章
	5. 1	高齢者叙勲 上杉政吉氏 瑞宝双光章受章
	5. 15	県退職校長会 理事会・総会 秋田市協働大町ビル
	7. 1	高齢者叙勲 富樫 勇氏 瑞宝小綬章受章 高松末治氏 瑞宝双光章受章
	7. 12	県退職校長会 郡市長・事務局長合同の会 秋田市協働大町ビル
	8. 1	高齢者叙勲 細田松太郎氏 瑞宝双光章受章
	8. 1	第1回理事会 県総会報告 事業計画審議 たしろ温泉ユップラ 結成40周年記念事業実行委員会・記念誌編集委員会
	10. 18	県退職校長会第36回秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 講演「正しい議論をするために－役人人生をふり返って－」 講師 東京海上日動火災保険株式会社顧問（前経済産業審議官） 佐々木伸彦氏 発表者 永井高道氏「美空ひばり”悲しい酒”考」ノートから
	10. 31	高齢者叙勲 大倉慶治氏 瑞宝双光章受章
	11. 3	秋の叙勲 澤井邦彦氏 瑞宝双光章受章
	11. 17	結成40周年記念式典・祝賀会 記念誌発行 出席者117名 ホテルクラウンパレス秋北 長寿者へ記念品贈呈（S 9年度生まれ） 田中昭雄氏 佐藤忠信氏 今川孝一氏 渡辺政美氏 関口慎一氏 安達正直氏 平川次郎氏 松田孫明氏 花田保男氏 工藤 庸氏 秋元哲郎氏 神成重雄氏 佐藤三七氏 記念講演 演題「地域の未来を創る」有限会社日景石油 代表取締役社長 日景賢悟氏
	12. 19	高齢者叙勲 五十嵐定義氏 瑞宝小綬章受章
	2. 10	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈 齋藤久志氏 伊藤禮次郎氏 柴田次郎氏 日景久吉氏 五十嵐清氏 庄司チエ氏 山田慎八郎氏 佐藤昭二郎氏 佐藤二郎氏 伊藤敬悦氏 松岡三雄氏
	3. 20	会報第9号「40周年特集号」発行
	3. 23	監査会・理事会 会計監査、本年度の反省、新年度の計画 ホテルクラウンパレス秋北
	3. 31	高齢者叙勲 伊藤昭二郎氏 瑞宝双光章受章
平成 27 年度	4. 27	総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 ホテルクラウンパレス秋北 会員数 273名（内、名誉会員34名）県届出数 234名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 8名（大館6 鷹巣2） 出席者106名
	4. 29	春の叙勲 山田慎八郎氏 瑞宝双光章受章
	5. 1	高齢者叙勲 齋藤久志氏 瑞宝小綬章受章
	5. 14	県退職校長会 理事会・総会 秋田市協働大町ビル
	6. 1	高齢者叙勲 庄司チエ氏 瑞宝双光章受章
	7. 11	県退職校長会 郡市長・事務局長合同の会 秋田市協働大町ビル

年度	月 日	事 項
平成 27 年度	8. 1	高齢者叙勲 伊藤禮次郎氏 瑞宝双光章受章
	8. 3	第1回理事会・役員研修会 県総会報告 事業計画審議 たしろ温泉ユップラ 研修会 演題「子どもハローワークへの取り組み」大館市教育研究所所長 山本多鶴子氏
	9. 1	高齢者叙勲 柴田次郎氏 瑞宝双光章受章
	10. 17	県退職校長会第37回秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 演題「社会が求める法医学の役割」講師 医学博士 吉岡尚文氏
	11. 16	研修会 会報第10号発行 出席者74名 ホテルクラウンパレス秋北 長寿者へ記念品贈呈（S10年度生まれ）萩野末治氏 桑山隆雄氏 奈良保男氏 水野哲哉氏 竹田平太氏 日景達郎氏 渡辺次男氏 金新佐久氏 葛西 宰氏 浅利 司氏 浅野英徳氏 佐藤 正氏 黒澤正吾氏 栗田修六氏 小林俊英氏 研修会 発表者 大館地区 岩崎清三氏「大館市文化財保護協会の活動」 発表者 鷹巣地区 永井高道氏「歌手美空ひばりの背景から」
	12. 1	高齢者叙勲 日景久吉氏 瑞宝双光章受章
	1. 1	高齢者叙勲 五十嵐清氏 瑞宝小綬章受章 佐藤二郎氏 瑞宝双光章受章
	1. 5	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈 佐藤昭雄氏 澤口禮二氏 山本陽一氏 木越信男氏 田村茂勝氏 仲谷安夫氏 阿部達雄氏 北村久雄氏 佐藤一巳氏 武石美作氏 高田政男氏
	2. 1	高齢者叙勲 伊藤敬悦氏 瑞宝双光章受章
	3. 23	監査会・理事会 会計監査、本年度の反省、新年度の計画 ホテルクラウンパレス秋北
平成 28 年度	4. 25	総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 ホテルクラウンパレス秋北 会員数 264名（内、名誉会員39名）県届出数 219名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 8名（大館6 鷹巣2）出席者93名 役員改選 会長 澤井邦彦 副会長 小林 茂 武田砂代子 高橋宏司 小林敏明 監事 畠山忠明 宮崎博文 米川重修
	4. 29	春の叙勲 長岐純一氏 瑞宝双光章受章
	5. 12	県退職校長会 理事会・総会 秋田市協働大町ビル
	7. 9	県退職校長会 郡市会長・事務局長合同の会 秋田市協働大町ビル
	8. 1	高齢者叙勲 佐藤昭雄氏 瑞宝双光章受章
	8. 1	第1回理事会 県総会報告 事業計画審議 大館市北地区コミュニティセンター
	10. 1	高齢者叙勲 北村久雄氏 瑞宝双光章受章
	10. 22	県退職校長会第38回秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 演題「世界の空を飛ぶ」～その知られざる〇〇～ 講師 全日本空輸株式会社 Boing777課 リーダーパイロット 高橋重行氏
	11. 3	秋の叙勲 小林 茂氏 瑞宝双光章受章
	11. 26	現職校長との合同研修会 会報第11号発行 出席者103名 ホテルクラウンパレス秋北 長寿者へ記念品贈呈（S11年度生まれ）工藤健二氏 高坂 浩氏 北林良英氏 佐々木邦夫氏 佐藤俊司氏 出川長五郎氏 津幡 進氏 佐藤俊雄氏 藤嶋 新氏 研修会 発表者 現職 大館市立矢立小学校 校長 六部勇二氏 「自らの安全を確保する資質や能力を育成する安全教育と校長の在り方」 発表者 大館地区 大館市文化財保護協会事務局長 清野宏隆氏 「狩野亨吉と夏目漱石」～漱石の手紙から～
	12. 1	高齢者叙勲 佐藤一巳氏 瑞宝双光章受章
	12. 28	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈 岩崎清三氏 成田治郎氏 松下 充氏 佐々木茂氏 佐藤昭次郎氏 金森嘉次郎氏 恵比原脩氏 嶺脇 勉氏 故庄司乙彦氏
	1. 1	高齢者叙勲 山本陽一氏 瑞宝小綬章受章
	2. 1	高齢者叙勲 武石美作氏 瑞宝双光章受章
	3. 1	高齢者叙勲 高田政男氏 瑞宝双光章受章
	3. 23	監査会・理事会 会計監査、本年度の反省、新年度の計画 ホテルクラウンパレス秋北
平成 29 年度	4. 1	高齢者叙勲 木越信男氏 瑞宝双光章受章 田村茂勝氏 瑞宝小綬章受章
	4. 22	総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 ホテルクラウンパレス秋北 会員数 252名（内、名誉会員40名）県届出数 207名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 9名（大館5 鷹巣3 合川1）出席者96名
	5. 1	高齢者叙勲 岩崎清三氏 瑞宝双光章受章
	5. 11	県退職校長会 理事会・総会 秋田市協働大町ビル
	7. 1	高齢者叙勲 佐々木茂氏 瑞宝双光章受章
	7. 8	県退職校長会 郡市会長・事務局長合同の会 秋田市協働大町ビル
	8. 1	高齢者叙勲 成田治郎氏 瑞宝小綬章受章
	8. 1	第1回理事会 県総会報告 事業計画審議 大館市北地区コミュニティセンター
	10. 1	高齢者叙勲 松下 充氏 瑞宝小綬章受章
	10. 1	高齢者叙勲 佐藤昭次郎氏 瑞宝双光章受章
	10. 21	県退職校長会第39回秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 演題「秋田の義務教育の成果・課題と今後の施策の方向性について」 講師 秋田県教育庁義務教育課 課長 佐藤有正氏

年度	月 日	事 項
平成29年度	11. 25	研修会 会報第12号発行 出席者76名 ホテルクラウンパレス秋北 長寿者へ記念品贈呈（S12年度生まれ） 佐々木忠治氏 蔦谷睦雄氏 佐々木淳氏 吉成尚親氏 成田富蔵氏 宮越禎子氏 佐藤郁生氏 工藤徳子氏 小野奎司氏 菊地嘉男氏 伊藤克男氏 五十嵐寛一氏 櫻田助十郎氏 今野富士夫氏 桂 邦夫氏 小坂浩子氏 石川敬一氏 奥田 稔氏 工藤栄臣氏 研修会 発表者 鷹巣地区 高橋重敏氏 「視覚障害（全盲）を克服し秋田県職員に採用された輝希君！ ～13年間の映像記録が語る確かな変容の姿～」 発表者 大館地区 高橋秀一氏「人の元気、地域の元気～3.11にかかわり続けて～」
	1. 26	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈 山田信雄氏 畠山清輝氏 乳井昭三氏 近藤 正氏 山岡多郎右エ門氏 赤石隆夫氏 小林 實氏
	3. 1	高齢者叙勲 嶺脇 勉氏 瑞宝双光章受章
	3. 23	監査会・理事会 会計監査、本年度の反省、新年度の計画 ホテルクラウンパレス秋北
平成30年度	4. 22	総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 ホテルクラウンパレス秋北 会員数 258名（内、名誉会員43名）県届出数 210名 会費 3,000円 県納付金 1,500円 新会員 16名（大館13 比内1 上小阿仁2） 出席者101名 役員改選 会長 小林 茂 副会長 武田砂代子 仲村吉光 小笠原友行 小林敏明 監事 畠山忠明 宮崎博文 米川重修 事務局長 佐藤久生
	5. 10	県退職校長会 理事会・総会 秋田市協働大町ビル
	7. 1	高齢者叙勲 畠山清輝氏 瑞宝双光章受章
	7. 7	県退職校長会 郡市会長・事務局長合同の会 秋田市協働大町ビル
	8. 1	第1回理事会 県総会報告 事業計画審議 大館市北地区コミュニティセンター
	10. 1	高齢者叙勲 近藤 正氏 瑞宝双光章受章
	10. 18	第46回東北退職校長会秋田大会・県退職校長会第40回秋季研修大会 秋田ビューホテル
	～19	講話「当面する全連退の活動について」 全連退常任理事・会計部長 三上裕三氏 話題提供と協議 発表県 福島県・宮城県・山形県
	11. 1	高齢者叙勲 山岡多郎右エ門氏 瑞宝双光章受章
	11. 9	県教委主催・大館市教委共催「学力向上フォーラム」への支援 8名の会員が協力
	11. 24	臨時総会（年会費の500円値上げ審議、承認） ホテルクラウンパレス秋北 研修会 会報第13号発行 出席者73名 長寿者へ記念品贈呈（S13年度生まれ） 成田純一氏 内藤捷美氏 高橋忠俊氏 石川久美氏 研修会 発表者 鷹巣地区 中嶋俊彦氏 「縄文の太古に想いを馳せる～伊勢堂岱遺跡に関わって～」 発表者 大館地区 五十嵐経氏「“はてな映え写真”で綴る『真実のハチ公物語』」
	1. 1	高齢者叙勲 乳井昭三氏 瑞宝双光章受章
	3. 22	監査会・理事会 会計監査、本年度の反省、新年度の計画 ホテルクラウンパレス秋北
平成31年・令和元年度	4. 20	総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 ホテルクラウンパレス秋北 会員数 249名（内、名誉会員48名）県届出数 196名 会費 3,500円 県納付金 1,500円 新会員 9名（大館5 鷹巣3 合川1） 出席者85名
	5. 1	新天皇即位により「令和」に改元される
	5. 1	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈～改元によりこの時期となる 田中 勇氏 佐藤 正氏 工藤正明氏 中嶋正三氏 真崎喜八氏 小林孝四郎氏 千葉克一氏 小川四朗氏 佐藤利吉氏 戸嶋弘文氏 伊藤四郎氏 松岡善則氏
	5. 9	県退職校長会 理事会・総会 秋田市協働大町ビル
	5. 21	春の叙勲 工藤康平氏 瑞宝双光章受章～改元によりこの時期となる
	7. 6	県退職校長会 郡市会長・事務局長合同の会 秋田市協働大町ビル
	7. 24	第1回理事会 県総会報告 事業計画審議 大館市北地区コミュニティセンター 結成45周年記念事業実行委員会・記念誌編集委員会
	8. 1	高齢者叙勲 田中 勇氏 瑞宝双光章受章
	10. 1	高齢者叙勲 千葉克一氏 瑞宝双光章受章 佐藤 正氏 瑞宝小綬章受章
	10. 12	県退職校長会結成50周年式典・第41回秋季研修大会 秋田ビューホテル 記念シンポジウム「『あきたブランド』創造の教師たち～日本一の先生たちがいた～」
	11. 1	高齢者叙勲 戸嶋弘文氏 瑞宝双光章受章
	11. 30	結成45周年記念式典・祝賀会 現職校長との合同研修会 記念誌・会報第14号発行 出席者110名（内、現職35名） ホテルクラウンパレス秋北 長寿者へ記念品贈呈（S14年度生まれ） 畠山忠明氏 木村義孝氏 仲澤鋭蔵氏 高橋陽子氏 記念講演 講師 東光鉄工株式会社取締役UAV事業部シニアマネージャー 鳥潟與明氏 演題 「未来を切り拓くドローン」

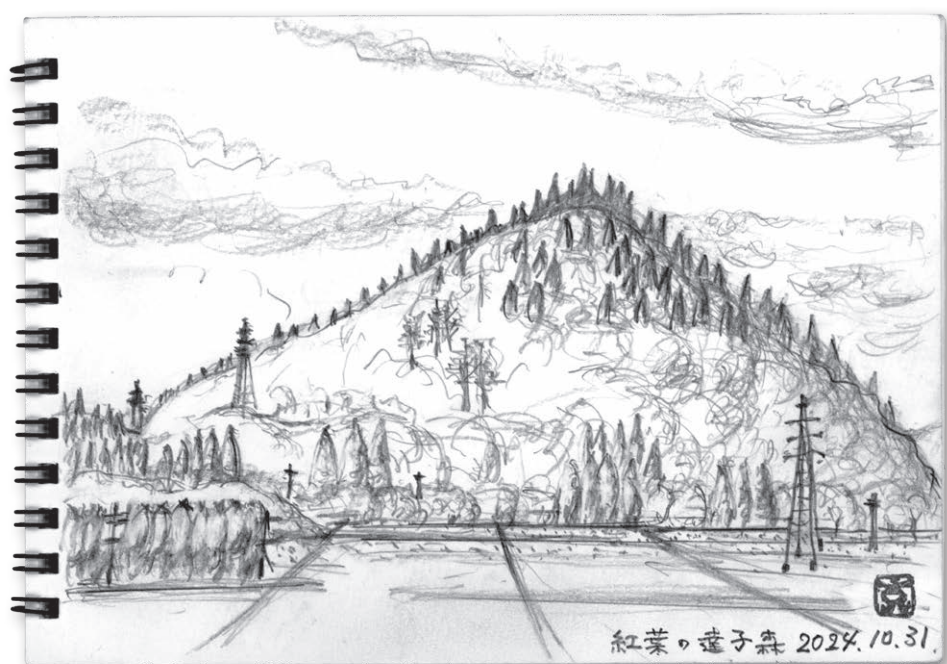
年度	月 日	事 項
令和元年度	12. 23	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈 森岡 昭氏 田畑耕造氏 福司有一氏 片岡春雄氏 福岡 清氏 高橋重敏氏 三浦謙蔵氏
	1. 1	高齢者叙勲 中嶋正三氏 瑞宝双光章受章
	3. 1	高齢者叙勲 佐藤利吉氏 伊藤四郎氏 松岡善則氏 瑞宝双光章受章
	3.19	監事会・理事会 会計監査、本年度の反省、新年度の計画 ホテルクラウンパレス秋北
	4. 1	高齢者叙勲 小林孝四郎氏 瑞宝双光章受章
令和2年度	4. 25	総会・新会員歓迎会（懇親会） 新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止 書面による議案の承認（決算、事業計画、予算） 会員数 236名（内、名誉会員41名）県届出数 190名 会費 3,500円 県納付金 1,500円 新会員 8名（大館5 比内1、田代1 鷹巣1） 役員改選 会長 小林 茂 副会長 武田砂代子 仲村吉光 小笠原友行 菅原明雄 監事 宮崎博文 米川重修 明石勝美
	5. 7	県退職校長会 理事会・総会（コロナ禍により中止、書面決議）
	6. 1	高齢者叙勲 森岡 昭氏 瑞宝小綬章受章
	7. 1	高齢者叙勲 田畑耕造氏 瑞宝双光章受章
	7.11	県退職校長会 郡市会長・事務局長合同の会（コロナ禍により中止、情報交換資料提出）
	7.29	第1回理事会 県総会報告 事業計画審議 大館市北地区コミュニティセンター
	10.24	県退職校長会第42回秋季研修大会（コロナ禍により次年度へ延期）
	11. 1	高齢者叙勲 福司有一氏 瑞宝双光章受章
	11. 3	秋の叙勲 三澤 仁氏 瑞宝双光章受章
	11.20	会報第15号発行 「会員からの声～短信」掲載（新入会員を含め107名から寄稿） 長寿者へ記念品贈呈（S15年度生まれ）（手交） 清野宏隆氏 長岐純一氏 秋元哲夫氏 松本隆文氏 若松美奈子氏 澤井邦彦氏
	11.28	研修会（コロナ禍により中止）
	1.12	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈 三浦多加稔氏 伊藤保之氏 佐藤博行氏
	2. 1	高齢者叙勲 片岡春雄氏 瑞宝双光章受章
	3.19	監事会・理事会 会計監査、本年度の反省、新年度の計画 北地区コミュニティセンター
令和3年度	4. 1	総会開催「中止」のお知らせ～郵送
	4.	総会 コロナ禍により中止、書面による議案の承認（決算、事業計画、予算） 会員数 236名（内、名誉会員39名）県届出数 192名 会費 3,500円 県納付金 1,500円 新会員 11名（大館5 鷹巣5 阿仁1）
	5. 6	県退職校長会 理事会・総会（コロナ禍により中止、書面決議）
	7.10	県退職校長会 郡市会長・事務局長合同の会（コロナ禍により中止、情報交換資料提出）
	7.28	第1回理事会 県総会報告 事業計画審議 大館市北地区コミュニティセンター
	9. 1	高齢者叙勲 三浦多加稔氏 瑞宝双光章受章
	10.23	県退職校長会第42回秋季研修大会（コロナ禍により次年度へ延期）
	11.27	研修会（コロナ禍により中止） 会報第16号発行 「会員からの声～短信」掲載 長寿者へ記念品贈呈（S16年度生まれ）（手交） 勝又立雄氏 小林 茂氏 黒澤弘子氏 近藤 巧氏 武田砂代子氏 宮野正子氏 樋口新平氏
	12.10	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈 田中昭雄氏 佐藤忠信氏 平川次郎氏 松田孫明氏 工藤 庸氏 安達正直氏 神成重雄氏 今川孝一氏 佐藤三七氏 関口慎一氏
	1. 1	高齢者叙勲 伊藤保之氏 瑞宝双光章受章
	3.18	監事会・理事会 会計監査、本年度の反省、新年度の計画 北地区コミュニティセンター
令和4年度	4.23	総会 コロナ禍により中止、書面による議案の承認（決算、事業計画、予算） 会員数 231名（内、名誉会員38名）県届出数 188名 会費 3,500円 県納付金 1,500円 新会員 11名（大館5 鷹巣4 森吉2） 役員改選 会長 伊勢善和 副会長 小笠原友行 菅原明雄 明石勝美 監事 宮崎博文 米川重修 安部公作
	5. 6	県退職校長会 理事会・総会（コロナ禍により中止、書面決議）
	7. 9	県退職校長会 郡市会長・事務局長合同の会 秋田市協働大町ビル
	7.28	第1回理事会 県総会報告 事業計画審議 大館市北地区コミュニティセンター
	8. 1	高齢者叙勲 平川次郎氏 瑞宝双光章受章
	10. 1	高齢者叙勲 安達正直氏 瑞宝双光章受章
	10.22	県退職校長会第42回秋季研修大会 地区発表（湯沢雄勝） 秋田市協働大町ビル 演題 「秋田発ソーセージ革命」 講師 (株)IMI ポルミート代表取締役 タベルスキ・マイケル氏
	11. 1	高齢者叙勲 神成重雄氏 今川孝一氏 瑞宝双光章受章
	11. 3	秋の叙勲 出川幸三氏 瑞宝双光章受章

年度	月 日	事 項
令和4年度	11. 26	現職校長との合同研修会 会報第17号発行 出席者67名（内、現職27名） プラザ杉の子 長寿者へ記念品贈呈（S17年度生まれ） 伊藤興治氏 菅原準一氏 宮崎博文氏 小西朝昭氏 発表者 大館地区 小林一彦氏 「今以上の未来を創り、力強く生き抜くための追究型学習＝『教わる』からの卒業」
	1. 1	高齢者叙勲 佐藤三七氏 瑞宝双光章受章
	2. 24	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈 水野哲哉氏 金新佐久氏 浅利 司氏 浅野英徳氏 黒澤正吾氏 栗田修六氏 小林俊英氏
	3. 17	監事会・理事会 会計監査、本年度の反省、新年度の計画 大館市立中央公民館
	4. 1	高齢者叙勲 関口慎一氏 瑞宝双光章受章
令和5年度	4. 22	総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 プラザ杉の子 会員数 224名（内、名誉会員38名）県届出数 181名 会費 3,500円 県納付金 1,500円 新会員 5名（大館3 鷹巣2） 出席者47名
	5. 11	県退職校長会 理事会・総会 秋田市協働大町ビル
	7. 1	高齢者叙勲 水野哲哉氏 瑞宝双光章受章
	7. 8	県退職校長会 郡市会長・事務局長合同の会 秋田市協働大町ビル
	7. 27	第1回理事会 県総会報告 事業計画審議 大館市北地区コミュニティセンター
	10. 1	高齢者叙勲 金新佐久氏 瑞宝双光章受章
	10. 21	県退職校長会第43回秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 演題 「児童生徒を取り巻く環境と課題について～部活動の地域移行に向けた取組～」 講師 秋田県教育庁保健体育課 課長 田口 康氏 地区発表（大館北秋田、男鹿市） 発表者 小林一彦氏「追究型学習のすすめ～教わるからの卒業～」
	11. 3	秋の叙勲 高谷松英氏 瑞宝双光章受章
	11. 25	研修会 会報第18号発行 出席者42名 プラザ杉の子 長寿者へ記念品贈呈（S18年度生まれ） 工藤康平氏 堀口節子氏 高橋宏司氏 佐藤敏子氏 大道政敏氏 杉本富吉郎氏 桑野富貴子氏 中田 稔氏 発表者 大館地区 田山 淳氏 「在外教育施設における体験活動の試み～ホーチミン・バハレーン各日本人学校の実践から～」 発表者 合川地区 工藤 隆氏 「あきたリフレッシュ学園の概要と体験活動の効果について」
	12. 1	高齢者叙勲 浅利 司氏 浅野英徳氏 瑞宝双光章受章
	1. 24	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈 高坂 浩氏 北林良英氏 佐々木邦夫氏 佐藤俊司氏 出川長五郎氏 津幡 進氏 佐藤俊雄氏
	3. 1	高齢者叙勲 栗田修六氏 瑞宝双光章受章
	3. 21	監事会・理事会 会計監査、本年度の反省、新年度の計画 大館市立中央公民館
令和6年度	4. 20	総会・新会員歓迎会（懇親会） 決算、事業計画、予算承認 プラザ杉の子 会員数 222名（内、名誉会員40名）県届出数 177名 会費 3,500円 県納付金 1,500円 新会員 11名（大館7 田代1 鷹巣3） 出席者47名 役員改選 会長 伊勢善和 副会長 小笠原友行 菅原明雄 明石勝美 監事 辻 博幸 福田 眞 安部公作
	5. 1	高齢者叙勲 北林良英氏 瑞宝双光章受章
	5. 11	県退職校長会 理事会・総会 秋田市協働大町ビル
	7. 1	高齢者叙勲 佐々木邦夫氏 瑞宝双光章受章
	7. 6	県退職校長会 郡市会長・事務局長合同の会 秋田市協働大町ビル
	7. 25	第1回理事会 県総会報告 事業計画審議 大館市北地区コミュニティセンター
	8. 1	結成50周年記念事業実行委員会
	10. 19	高齢者叙勲 佐藤俊司氏 瑞宝双光章受章
	10. 19	県退職校長会第44回秋季研修大会 秋田市協働大町ビル 施設見学（赤れんが郷土館見学） 地区発表（由利本荘・にかほ、大曲仙北）
	11. 1	高齢者叙勲 出川長五郎氏 瑞宝双光章受章
	11. 3	秋の叙勲 北林 強氏 瑞宝小綬章受章 高橋秀一氏 瑞宝双光章受章
	11. 30	結成50周年記念式典・祝賀会 記念誌発行 プラザ杉の子 長寿者へ記念品贈呈（S19年度生まれ） 大道美代氏 渡部尋子氏 清野克子氏 永井高道氏 仲村吉光氏 澤井康子氏 滝沢勝秋氏 遠藤昭男氏 和田克郎氏 記念講演 講師 株式会社 花善 八代目代表取締役社長 八木橋秀一氏 演題 「地域と共に歩み、そして生きる」
	1. 1	全国連合退職校長会より米寿者へ賀詞の贈呈
	3. 19	監事会・理事会 会計監査、本年度の反省、新年度の計画 大館市立中央公民館

（令和6年11月15日現在）

会員の寄稿文

「退職後の豊かな生きがいをもとめて」を踏まえて
自由に思いや近況を綴っていただきました。



紅葉・遠子森 2024.10.31



秋日思うままに

大館地区 今 川 孝 一

尾花の波打つさまは見事である。微風にも小穂を震わせて魔性の如く舞う。野づらを覆って群生する穂並がりズミカルに揺らぐ風景は、穏やかな海面を這い進む白波を彷彿させる。

すすきが秋の七草の1つに当選したのは、この風光美と穂先の礼節そうな垂れ姿によるのだろうか。

薄の別称のかやは、茅葺き屋根の素材であった。そのため茅刈り場を大切に管理し、茅を刈っては乾かし、順繰りに各家々の屋根修理に供された。さらに良質の茅にするため茅原の野焼きが、晩秋から初冬にかけての大作業であった。

立枯れ寸前の茅の叢がりを灼熱した火柱が大音響をたてて咆哮し、一帯を舐め尽くしていく。その火焰の迫力と恐怖には、身をすくませた。河川敷の中州が、その舞台の場所だった。

茅の仲間に葦がある。悪(あ)しは不具合で善(よ)しの名のヨシも同じ物。今も廉などに活用され、芦の字も当てる。謡曲「芦刈」の中でも登場し世阿弥が活躍の室町の頃も使用されていたようだ。

来年令和7年は、昭和年加算すると100年目。激動昭和にまみえたヨシミで、枯薄ながら芯の確かさを支えに、日々慎ましく運命に甘えて行こうと思う。(秋断想2)



私に、お星さまが見えない

大館地区 小 林 俊 英

「星の観察会」を行った時の出来事です。母子で参加した二人が、私の担当望遠鏡にやってきた。母親が先に覗いて、「見てごらん、きれいに見えるよ」と言って子どもと代わった。子どもはしきりに覗いていたが、「お星さまはなんにも見えないよ」というので、私が代わった。北極星が望遠鏡の視野から外れずに輝いていた。数回同じことを繰り返したが、子どもからの言葉は変わらなかった。何かに気づいた母親が「〇〇ちゃん、望遠鏡で明るくて小さい光が見えなかった？」と尋ねたら「うん、見えたよ」と。それで全てが解決した。

★の形を追っていたことに気がついた母親(小学校の先生)は「〇〇ちゃんが見たのが、本当の星なのよ。ここから見える星は全部お日様のお友達なの」「〇〇ちゃんのお友達も遠くに離れていると小さく見えるでしょう。それと同じなのよ」。明快な説明であった。

この「観察会」で貴重な勉強をしたのは自分であった。



避難橋(?)再訪

大館地区 佐 藤 俊 司

戦闘地域の子供たちが硝煙の中を傷つき、逃げまどっている映像をみると胸が詰まる。

自分にとって戦争を一番身近かに感じたのは、釜石の艦砲射撃(終戦30日前)である。家具がガタガタ鳴り出し、震度3位の揺れだったろうか。釜石ってどこなのか、艦砲って何なのかよく知らない大館の小学4年生であった。

新聞で多くの都市が空襲されていることを知り、不安が増すばかりである。周りは茅葺きの家ばかり、燃えない物一つもない。ところがはたと思いついた。神社の参道の幅・長さ3m高さ2mの橋である。欄干はコンクリートだから、橋床もコンクリートのはずだ。6人は入れるはずだ。少しは気が楽になったことを覚えている。

80年経った今年、その橋を訪ねてみた。どうやら原型はとどめている。爆撃から身を守れるはずもないが、当時の自分は大きな安心をもらった。

いまこの瞬間も命の危険に身を曝され、寒さに震え、飲み水の不足に悩んでいる人がいる。自分の幼い頃の体験と比べものにならない。平和の大切さをしみじみと思う。



「花と絵と歌」のある暮らし

鷹巣地区 小坂 浩子

「花と絵と歌」のある暮らしでありたいと願い 27 年。咲き誇る景を求め、主人と朝夕千株の花々の中に浸る。花摘み・水やり、日々の労は心地よく、軟弱な体を引き締め、風邪も引かずです。一人では無理となった時、花は徐々に減り、ほんの少しだけになったが、咲き誇った光景は胸に生きています。絵は小中高大と今も手離せない趣味です。白いキャンパスは開放された私だけの空間。題材があっても無くても心が落ち着くのです。旅の思い出、数々の登山の景。刻を忘れて向き合う日もあります。歌はハーモニーの心地良さに浸り幸せを体感できる楽しみの場。年齢を重ねる毎にその機会は少なくなり、今は聴き役です。花も絵も歌も、今は手が届かなくなったが、やりたいことができたという満足感に浸っています。今、鉛筆一本でいつでもどこでもできる短歌にはまっています。27 年続けてきた更生保護ボランティアもあと少し。心穏やかな日々でありたいと願っています。

大館・明治女子教育先覚三人

比内地区 宮越 禎子

明治 5 年学制発布、7 年学校開設当初、中城学校（現城南小）男 25 名 女 3 名、扇田学校男 85 名 女 0 名の記録がある。

明治 9 年秋、県は女子教育の振興策の一環として女子師範伝習場を開設、町に士族の妻か娘を三人以上の出願を義務付けた。修学は一年間。10 年 12 月までの卒業生は 37 名。この中に大館城下からの田村ナカ（38 才）渡辺タケ（27 才）小高根ナオ（25 才）がいる。田村と小高根は中城学校の分教場に女兒収容。田村は私費も投じて女子教育の必要性を訴え西街学校を創設「諸人の学の道もけふよりは、猶世に広く開け行くらん」の句を詠んでいる。渡辺は、扇田小に、独鈷学校（現東館小）や三嶽小にも勤務している。女を教え導く組合を結成会長に。扇田婦人会創設の先駆者でもある。小高根は明治 20 年代自宅に塾を開き裁縫を中心に教えた。大館田町愛宕神社境内に石碑あり。この 3 人、平成 22 年発行の「大館の人・事典」掲載の女性 12 人の内の 3 人である。大館地区女子教育の先覚として語り継いでいきたいものである。



小さな生きがい

森吉地区 奥田 稔

先日、内陸線百 km マラソン大会があった。沿道の定められた場所で、走ってくる選手を激励するのが私共老人クラブの役割だ。当日は寒く小雨が降り厳しい状況下であった。角館から峠を越えて約八十 km、残り二十 km の地点。快調に軽々と走る人、懸命に悶えながら走る人、仮装までして楽しみ、楽しませながら走る人… 様々だ。そんな選手たちとの数秒間の出会いだ。「拍手をする」走るリズムに合わせて声を掛ける。「イイゾ、イイゾ」「アト少し、アト少し」「ガンバ、ガンバ」… 椅子に座ってはいられない。選手の反応も様々だ。「ただ黙々と走る」「にこっと微笑む」「手を挙げ、アリガトウ」心の交流ができる瞬間だ。うるっとくる。四時終了。夕食時別会場で応援していた妻とコップ一杯のビールで乾杯。「今日は疲れたけど楽しかったね」… 退職後二十七年、二月には地域の同級生と米寿を祝うことができた。体力・気力が減退し思うように物事がはかどらない。老醜をさらし、老害を及ぼすことを恐れてはいるが好きなことを楽しんでいる。周りの人に感謝し、そしていささかでも役立つことを願って交流している。ほんのささやかなことを生きがいとして。



もう4年

大館地区 樋口 新平

退職してから22年経過した。目標としていた大きな山（男性の平均寿命81歳）を超え、今後の目標はもう4年、元気で生きたい。理由は日本や世界の政治・経済・スポーツ等がどのように変わっていくのかを見たいからです。そのためにはまず健康で無ければならない。

今、私が健康の保持増進のため実行していることは、生活リズムをあまり崩さない事です。

起床は4月～10月は5時、(11月～3月は6時)、家庭菜園の見回り、ラジオ体操（ジャンプが一番の苦手）、朝食、朝ドラ、そうじ、新聞などで結構忙しい。昼食後は20分の昼寝。午後（夕方）はウォーキングを40分程度（五千歩位）速足で、脚に負担をかけるため坂道のあるコースを選んでいく。

また、筋力の衰えて行くのがはっきり分かるのが縄跳びで両足飛びは30回が限界、片足跳びは左足は全くダメ、と全く情けない状態なので縄跳びも少しずつ行っている。夕食時の晩酌は1合くらいで飲めなくなった。就寝は9時、夜中の2時頃目を覚ました時は「ラジオ深夜便」を聞いている。



俳句入門

鷹巣地区 佐藤 敬子

退職後「何かを」と思っているとき先輩に誘われた。

「道具は不要 場所をいとわない 字数が少ない」という言葉に安易に取り組んだのが俳句だった。取り組んでみて俳句の難しさと奥の深さを感じている。季語の生かし方、句に自分を託すことの難しさ。言葉が出てこない等等あるが、もう少し続けてみようと思うこの頃である。

あれこれと眠れぬ夜の虫時雨
万緑やぶくぶくたぎる泥火山
喪服脱ぐ静かな夜の秋の虫
年新た傘寿の道を一步ずつ

秋の夜や母の家計簿読み返し
秋の宿訛りの残る標準語
病室の窓に大きな今日の月



医学の進歩に感謝して！

大館地区 小笠原 信子

3月、白内障の手術を受けた。前から言われていたが、老い先が短いのと怖いので、先伸ばしにしていた。数十年前、祖母が同じ手術を受けて、痛くて片目だけで断念したことも、頭の片隅にあったかもしれない。

しかし、去年の運転免許更新が、視力のせいで危ないところだった。車がなければ、買い物はおろかどこにも行けない。切羽詰まってようやく決断した。

その結果、両眼とも退職時と同じ1.2にまで視力が回復し、今では老眼鏡なしで新聞が読めるようになった。祖母の頃とは違って痛くもなかったし、あっという間に終わった。医学の進歩に感謝している。

4月、子どもたちや孫たちと伊豆半島に遊び、熱海で喜寿の祝いもしてもらった。紫色の祝い着には抵抗があったが、否応なしに着せられ、記念写真まで撮られてしまった。

9月、爽やかな秋に、また読書ができることに感謝しつつ、もう少しだけこの穏やかな日々が続いてほしいと願っているこの頃である。



この夏の思い出

田代地区 小笠原 友 行

夏休みを利用し、横浜から中一の孫が一人でやって来て1ヶ月間一緒に過ごした。「撮り鉄」が趣味で小学生の頃から列車に乗り慣れている。「青春18切符」を利用し、上越、信越、白新、羽越線の普通列車を乗り継いで秋田駅に着いたのは23時13分であった。

履いてきた靴があまりにも傷んでいるのを妻が発見。兄弟姉妹が多くて、いつもお下がりばかり与えられている子だから早速新しいスニーカーを買ってあげた。

帰りも普通列車を乗り継ぎ、夜の11時過ぎに無事に着いたと娘からメールがあった。

老人二人の生活に孫が一人加わっただけだが、一緒に畑の野菜に水をやったり、スーパーに買い物に行ったりして、家の中に活気が生まれた。

孫が帰ったあと妻は過労のためか血圧が上がったと言う。私には「楽しかった」と言って帰った孫との1ヶ月が忘れられないこの夏の思い出である。



地域の皆さんと楽しくやってマス

上小阿仁地区 伊 藤 明 美

総勢297名の大所帯。会員は年々自然減少するも、50代（数人）から90代まで皆さんとても元気なご婦人たちです。ちふれ化粧品や乾物の販売をはじめ、ボランティアを主とした活動（交通安全、結核予防、防災、赤十字奉仕団等々）、集落行事への協力、「健康教室」の企画・運営等、多彩？です。むろん、お楽しみ旅行もあります。退職して初めて知ったこの「大所帯＝婦人会」に携わるようになって、はや12年になりました。ちょっと面倒なこともあります、集まる（集う）ことは楽しいことです。年齢が進み、「今日行く（教育）所」も「今日用（教養）事」も減りつつある昨今、老化まっしぐらの脳や身体に少しでも刺激を与えるプログラムを体験中！と考えれば、このお役目はむしろ有難いことかもしれません。防災講習や認知症予防、特殊詐欺などタイムリーな研修も満載です。先日、依頼を受けて村内の高齢者施設を訪問してきました。若い人を誘い16人編制のわかダンサーズで東京ブギウギと上小阿仁音頭を踊ってきました。フィナーレは「なんちゃって～！ ラインダンス！」入所者の皆様に喜んでもらいました。今日が一番若い日であることを噛みしめています。課題は世代交代！「繋がる婦人会」を目指して、只今日論み中…。



僕の「美術巡礼の旅」

鷹巣地区 佐々木 久 隆

僕は小学時代ピラミッドやミイラ等の古代遺跡に興味を持った。大人になったら船で世界一周しようと決意した。日本では美術館の外に何時間も並び、やっとたどり着いた作品の前では「進んでください！ 立ち止まらないでください…」この風景は異常だ。クルーズ船も流行しだしたが行きたい遺跡は内陸にも多く、その都度数万円かけてオプションツアーに参加しなくては現地に行けなかった。そこで船旅はやめ、夏休みや正月休みを利用し行く先ごとの飛行機に変えた。費用はタバコ代の毎月2万円をタンス預金にし、3年経って70万円貯まったら、いつも世話になっている妻を連れて「美術の旅」に出かけることにした。もう40代に入っており遅いスタートだった。最初はイタリアにした。それから30数年、直近ではエジプトで10回目の渡航が実現できた。次はいつ何処に行けるのか国際情勢変化やコロナ、自分の年齢も考慮する必要がある、わからない時代になった。



第二の人生は絶景を求めて全国の峰々へ

比内地区 米 澤 喜一郎

定年退職後から本格的に取り組み始めたのは登山だった。日本百名山ブームが続いていた頃で、隣県の山から東北の山へと登りながら、少しずつレベルを上げ、北アルプスの3千m峰に挑戦するまでに体力がついてきていた。槍ヶ岳や穂高岳、劔岳などの日本百名山に挑戦していた頃、ある本に出会った。北アルプスの名峰が誕生するミステリーが書かれていたもので、大規模なカルデラ噴火が起こり、その後隆起し、今度は氷河によって削られてできたというストーリーだった。初めはいかにして多くの百名山に登るか、その数を増やすことだけにこだわっていたが、この本のおかげで登る山の数よりも山の成り立ちや山名の由来、麓に住む人々と山とのつながりなどにもおもしろさを見つけたのだった。今では一見、山に関係なさそうな修験道や仏教、神道などの宗教や歴史書、地学、火山、プレートテクトニクスなどの分野の本が本棚に並ぶようになり、山の楽しさをより豊かなものにしてきている。北は北海道から南は九州まで、絶景を求めて全国の峰々に登りに行っている。

普段の体力づくりのため登っている大館市の鳳凰山へは、これまでで2500回ほどになり、現在3000回を目指して続けているところである。



スマホで遊んでいます

鷹巣地区 高 橋 充

昨年9月に、スマホデビューをした、と友だちに連絡したら、さっそくラインのグループに入れられた。全国に住む8人での気ままな連絡帳である。98歳の母を介護する友、釣り三昧の友、高校の先生、大学教授、写真マニアなど、彼らの日々が伝わる。

つり上げた岩魚の写真が送られると、それぞれが魚の話を始め、料理好きが調理法を送信する。富士山の美しい写真が届くと、登山談義や自慢話が繰り広げられる。新しい著書の紹介もされる。熊の出没が続いているので心配で庭の柿の木を切った、と写真を送ったら、そういう所に住んでいるとは知らなかった、という感想が送られてきた。

めったに会えないので、このようにして折々の日常を伝えあうのは、おもしろいものだ。若い頃には見えなかったり、気づかなかった素顔の発見もあり、ちょっとした息抜きになっている。



おめでとう体操日本

大館地区 菅 原 明 雄

今年開催されたパリオリンピックで2大会ぶりに金メダルを獲得した体操男子団体の選手の活躍が最も心に残っている。団体決勝の5種目まで中国が圧倒的に日本をリードしていたが、最後の鉄棒で中国選手の2度の落下と日本チームの頑張りで大逆転して金メダルを獲得。日本のエース橋本選手は怪我のための練習不足で本来の切れ味のある演技ができず心配されたが、仲間たちの温かい声援を受けながら高難度の手離し技を次々と成功させ、素晴らしい着地で終わった。結果が発表された時、チーム全員が肩を叩き、抱き合って喜ぶ姿を今でも忘れることはできない。お互いに励まし合い、最後まで諦めずに演技する姿が大きな感動を与えてくれた。6月の千葉吟子杯体操大会の審判長講評で、私は子どもたちに「オリンピックを見てください。体操が上手になるには上手な選手の演技を見ることが大切です」と話した。10月に行われる市民スポーツ祭体操大会で子どもたちのさらに成長した姿を見るのが楽しみである。



あれから 50 年

大館地区 伊 勢 善 和

昭和 49 年 4 月 1 日、臨時講師としての最初の赴任校は合川東小、校庭は残雪で覆われていた。43 日で辞職、日曜日の運動会の閉会式が離任式、翌日から扇田小に赴任、百周年の大運動会、2 週連続の運動会を経験した。10 月からは城西小、昼休み、校庭に出ては子供たちと戯れ、放課後はミニバスの活動に明け暮れた。その後、中学校勤務が長かったが、平成 17 年、桂城小に赴任、ここも 3 か月と 13 日と小学校には縁が薄かった。

首都圏に家族で出かける用事が何度かあり、当初は高速道路で往復したが、日程に余裕ができた昨今は高速料金を宿泊費に変えて一般道を利用、途中で 1 泊して景観を楽しみながら移動している。高じて今夏は北陸沿岸を新潟で 1 泊して滋賀県まで走行、57 年ぶりの東尋坊の変容に驚き、紫式部の関連施設や賤ヶ岳に登って当時を偲び、平等院で 10 円玉と記念撮影、帰路は台風情報に振り回され、予定変更の真夜中運転、帰り道は遠かった。



教え子の同級会

鷹巣地区 明 石 勝 美

今年、お盆を前に中学校勤務時の教え子から同級会への案内を受け久々に出席することにした。幹事によると、毎回 5 年ごとに行っており今回は 55 歳を迎え多数集まるという。これまでに数回出席しているが、その都度思わぬハプニングに出会うことがあり、今年は何が待ち構えているか楽しみに会場へ向かった。

会場を前に玄関先で数名のグループに出会った。こちらに視線を向けるが、黙り込んでいる私を察してかその中の一人が「先生！俺どご分がるが!？」と言い寄って来た。が、現在の容姿からは全く思い出すことができずヒントを要求。漸く中学校時代の彼が蘇り感動のハグとなった。正に 40 年の隔たりを感じた瞬間でもあった。初っ端からこのようなハプニングに会う中、皆が待つ会場へと移動するもやはり見覚えのないひと達がチラホラ散見。暫くは杯を片手に会話を交わし、当時の思い出話から徐々に記憶を紐解くことに。会の進行とともに会話は進み、家族のことは勿論それぞれの職場で責任ある立場を担い活躍している様子を知ることができた。改めて彼らの成長に嬉しさと頼もしさを感じ、「流星年を重ねた 55 歳」との感を強くした次第である。また、現在地元に残っているひとは少なく殆ど他県に居住しているという。中には、既に実家が畳まれたひともいると。それでも仲間との再会を楽しみに故郷に帰省し続ける彼らには心底羨ましさを感じた同級会であった。

次回は 5 年後だという、既に案内を受けている。



アレクサンダー大王の末裔と出会った!?

大館地区 辻 博 幸

<写真：サリームさん(左)と一緒に>

2011 年 8 月、イスラマバードからガンダーラの仏教遺跡を見学後、はるか眼下のインダス川への転落に恐怖しながら、悪路のカラコルムハイウェイを北上すること 1000km。カラコルムの峰々に抱かれた杏が美しいフンザの谷に到着。現地ガイドのサリームさんは、パキスタン人とは全く違う顔立ちのイケメン。彼の先祖はアレクサンダー大王の末裔だという。大王は、インダス川を越え、インド西北部まで進軍。部下の疲労でやむなく東方遠征を終えた。サリームさんのマケドニア人のような端正な顔を見て、世界史を目の当たりに感じ、身震いしたものだ。

そして今年の年末、妻と娘を連れ、ドイツのハン・ミュンデンに旅する。ベルリンの壁が崩壊した翌年の 1990 年 10 月、教員海外派遣で初めて海を渡り、学校訪問したのが城壁に囲まれ、木組みの家々が美しいミュンデンの街だった。35 年の時を経て、妻と娘に、あの時の感動を伝えたい。



値千金、最後の川は?!

大館地区 高 橋 善 之

退職校長会結成 50 周年をお祝いたします。

この寄稿文の主題は「退職後の豊かな生きがい」とのことですが、まだ「教職の深いやりがい」を日々体感している身としてはやや困惑。一応「密かな夢」はあるものの、それはあまりにも現実離れした笑い話。ご承知?の通り、十年ほど前には、私は砂金採りの「みち金善さん」の異名で業界?に知られてました。近年は、「公務」が多忙で「金務」の方はすっかりご無沙汰なのですが、退職後は、健康のため、探究のため、砂金採りを復活しようと考えています。これまで採取できた川は、東北地方を中心に 650 カ所ほど。生涯目標としては千カ所を目指し、達成できれば値千金。しかも、千カ所目の川はすでに決定済み。そこは、「三途の川」の「賽の河原」。六文銭どころか、渡し船料金を砂金で豪勢に支払いあの世へと渡れるならば、極楽往生は間違いなしという目論見です (^^) / ☆。



毎日の習慣は、毎日のしあわせ

大館地区 河 田 和 徳

退職 10 年が過ぎて古稀を迎えた今、はっと気づかされる文章に出合った。「毎日の習慣には、一つ一つすべてに喜びがあり、一つ一つすべてが大切な仕事である。これは、〈毎日のしあわせ〉と言い換えてもいいだろう。」という文である。毎日繰り返される日々の営みは、単調で変化があまりないように思われるが、一つ一つのやるべき事にどんな気持ちで臨み、どう考えるかで充実感が違ってくると感じている。例えば、朝仏壇に手を合わせる・新聞を読む・朝食の準備をする・コーヒーを淹れる・茶碗を洗う・掃除機をかける・散歩する・植物に水やりをするなどの行為を毎日丁寧にやることで、心穏やかになる。

これからも毎日の習慣一つ一つに喜びがあり、大切な仕事であるという考え方を大切に、このような習慣を継続できることに感謝しながら生活していきたい。そして、この感謝の気持ちを、地域の方々や身近で声をかけてくれる人に、自分なりのやり方で、少しでも還元できればと思っている。



時 代 の 流 れ

森吉地区 庄 司 邦 昭

春に教育関係者が集まる会で、私が同じ大学の二つの学部を卒業した経歴に興味を持たれた。退職校長会が結成された昭和 49 年の 10 月に私は大学 1 年生。大学卒業後に電気関係の技師や工業デザイナーになることを夢見て電気工学科に入学したが 4 年生の時に進路変更を決めた。卒業後に教育学部へ学士入学し、2 年後に卒業して教員に採用された。その頃は授業や校務でアナログ的なものがほとんどであったが、現在は ICT が普及して PC、タブレット端末、生成 AI なども授業で活用されるようになり、子どもたちの中には身につけるのが早い子がいって指導する先生方は大変だと思う。そして教育現場に限らず、自分も時代の流れに乗り遅れないように苦労している状況である。

退職後に旅行や美術館めぐりなど、趣味に多くの時間をかけてのんびりと過ごせることを期待していたが、これまで複数の団体の役職などを務めてきたので満足できる状況ではない。しかし、これからも健康維持に気を配って「老化」と「ぼけ」に対抗して有意義に生きていきたい。



今、NHK大河ドラマがおもしろい！

大館地区 佐藤 和 広

初めて最後まで見たのは、石坂浩二が上杉謙信を演じた「天と地と」。信長や秀吉をよく知る前に「決戦川中島」を先に知ってしまったので、その後の歴史のイメージが、他の人と微妙に違っていったような。その後、つかず離れずでしたが、「麒麟がくる」「鎌倉殿の十三人」以降、俄然面白くなってきた。一つは、明智光秀、北条義時に興味があったのと、歴史資料の発掘・研究がどんどん進み、それを積極的に生かしてよりリアルな歴史劇が展開されてきた。戦国期の混沌とした状況の中での諸武将の動き、何でもありの初期武家政権に一定の秩序を構築してきた北条政子・義時姉弟の動きに、歴史的考証が加わって、より生々しく描かれています。そして、今の、藤原道長、藤原実資像もいい感じです。できれば、いろいろな意味で日本の国の基本ができあがったとされる、天武・持統天皇、藤原不比等の時代を、大河で見てみたいものです。テーマ音楽もすばらしい。



家庭菜園をして思うこと

合川地区 工藤 隆

退職後始めた家庭菜園、同じく退職された先輩や後輩に家庭菜園をしている人が多いと聞きます。毎年ジャガイモや枝豆、ニンニク、大根、ほうれん草、トウモロコシ、ヤーコン、カボチャ、スイカ、メロン、トマトなどなど、食べたいと思うものを育ててきました。変わったものとするれば、食用ほうずきやウクライナ、ロシアで真っ赤な煮物としてよく食べられているビーツです。日本の野菜でいうと形状はカブ、煮物より天ぷらにすると甘くなり美味しいです。野菜は天候に左右されるので、上手くできる年とできない年がありますが、それで凹んでいてもしょうがないです。今年は今のところビーツや早取り枝豆、ジャガイモ、大根などがよかったです。

仕事先のあきたリフレッシュ学園でも子どもたちと畑作りから野菜を育てていて、育った野菜は家に持ち帰ってもらい喜ばれています。やはり野菜も生き物ですから、しっかりと栄養や環境を整えてあげないとうまく育ちません。ただ、栄養を与えすぎてもいけません。

枝豆などの豆類には、肥料を与えすぎはいけません。トウモロコシやトマト、なす、タマネギなどは肥料食いですので沢山与えなければなりません。トマトは実が大きくなって赤く色づく頃には水は与えません。水を絶つことで実が凝縮し甘くなります。逆にキュウリは実がなり始めたら、水を切らさないように与え続けないと、実が曲がったりする変形キュウリが多くなります。普通野菜を育てるには酸性土の中和として石灰を入れますが、ジャガイモは酸性土を好むので入れない方がいいです。

家庭菜園をやっている人はこれらのことが分かってやっていると思います。人を育てるのと同じでそれぞれに対応を工夫していかなければならないというのが野菜作りの面白さでもありますよね。





コミュニケーション力

大館地区 小 松 大二郎

かつて長期研修で同じグループだった先生方と、今でも交流を続けています。

その中の一人、高知市在住のM先生は私より2歳年上。向学心旺盛で、2年前は鳴門教育大学大学院に入学し、今春見事に卒業しました。とても気さくな方で、しばしば全国を旅行し、海外にも時々出かけています。4月には北海道へ向かう前後に大館に寄り、往きは奥入瀬溪流を通過して青森まで、帰りは角館で花見をして北上まで送りました。

同行して気づいたのは、誰にでも気軽に声をかけ、すぐ親しくなることです。奥入瀬溪流では家族連れの外国人に話しかけ、三沢の米軍基地に勤めている方だと分かりました。角館のレストランではサイドカー付き外国製高級二輪車を見かけ、その運転手を探し当てLINEを交換するまでになっていました。行く先々で、いろいろな人に進んであいさつし、言葉を交わす、その社交性とコミュニケーション力の高さに、私は驚きっぱなしでした。



緑のカーテン

大館地区 滝 内 金 悦

近年真夏の気温が35℃越えになることがよくある。窓にサンシェードを付けようと思ったが、納得いく物を見付けることができなかった。そこで、朝顔の緑のカーテンを作ることにした。2個の旗立台にそれぞれ支柱を立て横木を渡してネットを張り、手作りした。苗は昨年採種したものを蒔き育てた。成果①窓枠に吸盤フックを付けネットを張ることで窓の上まで蔓が伸び、毎日朝顔の花を楽しむことができた。②日光を遮ってくれるので、午前中は扇風機で過ごすことができた（午後はさすがにエアコンが必要だったが…）。しかし、梅雨明けして日差しが強くなると、日中は葉が萎れ遮光効果が薄れてしまうという問題もあった。課題①日中萎れないように、深いプランターに植えて台の上に置く。②朝顔より高温に強いゴーヤが適しているのでは？。気象庁によると、日本の今年の夏は平均気温が過去最高を更新した。緑のカーテンはまだ工夫が必要であるが、来年も挑戦しようと考えている。



全国デビュー

上小阿仁地区 山 田 俊 逸

昨年「全国デビューの日はやってくるでしょうか？」で終えた原稿。

脱稿して程なく、会報が送付されてくる前の10月15日付読売新聞「時事川柳」に載ってしまいました。10回目の挑戦でした。その後も運良く11月21日、4月16日付同紙同欄に。さすが全国紙、1句掲載につき千円の図書カードが送られてきました。

読売新聞秋田版「よみうり文芸」で秀逸をいただければ五百円の図書カードとボールペンの記念品がもらえます。ちなみに魁「読者文芸」は全く何もありません。

保護司の（月刊）機関誌、「ひまわり俳壇」でも同様に、4度千円の図書カードが送られてきました。意外にもあっさりと目標を達成してしまったので、次なる目標を何にしようか思案中です。



今、大館がおもしろい

大館地区 佐藤 正 好

障がいのある人の一番の楽しみはカラオケがダントツである。昨年度は『何でも発表会』を何と鹿鳴ホール（市文化会館）で行った。これまでもピザやそば作り、スポーツ等々と様々な講座を展開してきているが、400 人が入る中ホールでの実施は全国的にもとてもめずらしい。何のことはない、NHK ののど自慢の歌に加えて、ダンスもピアノ演奏もコントでもいわゆる何でも OK との発表会である。「中ホールのステージで、君もスターになる」キャッチフレーズもステキで、生涯学習課の意気込みを感じる。緊張してのダンス、堂々とした歌唱、見事な衣装での演舞、珍しい打楽器演奏等々である。いつもは広くない部屋でのカラオケが、あの芸能人と同じステージでスポットライトを浴びながら発表できるのである。共通していることは、スターになったであろう満足感・達成感の観る者への強い伝わりである。障がい者の生涯学習事業が始まって 4 年、当初から手伝わせていただいている。太っ腹な大館は、来年の 1 月 12 日も同ホールで行う。観るもよし、助っ人もよし、それこそ何でもいいので、ぜひ感じてほしいと思う。もちろん無料である。



ダイバーシティ

大館地区 小 林 一 彦

あらゆる性質や特徴の共存を目指す考え方が政府や公的機関・ビジネスで戦略として位置付けられています。外部から判断できる性別・年齢・人種・国籍・容姿・障がいなどに限らず、スキル・能力・職務経験・宗教・価値観・趣味・ライフスタイルなど外部から判断しにくいダイバーシティもあります。

これらの違いを決め付けで次に進めていくのではなく、様々な人材を受け入れ能力を発揮できる場をつくることに目が向けられています。現役のころは考えもしなかったと一瞬思いました。しかし、対象を職員や子どもで捉えたとき、様々な多様性に対応した学校開発をしてきたことも思い起こしました。ただこれからの多様性はさらに細分化され増え続けていきます。企業ビジネスに限らず学校現場でも様々な多様性を偏った捉え方をせず、可能性を十分発揮できる状況をつくっていかねばなりません。なんか生徒指導の機能の拡大版みたいですが……。



親爺たちの旅

鷹巣地区 村 上 光 明

この夏、札幌に住む S 先生を訪ね、同業者（飲み仲間）の A さん、F さんの 3 人で旅をした。千歳空港に着くなり、まず北海道ラーメン道場の行列に並んだ。札幌駅で S 先生と合流し、北大キャンパス～サッポロビール博物館～時計台～大通公園と定番の修学旅行コースを散策。夜はニッカのおじさんを眺めながら飲み放題の海鮮酒場へ。次の日、円山ビバリーヒルズにある S 先生のお宅を訪問し、北海道神宮～大倉山ジャンプ場～モアイ像が並ぶ霊園を見学。夜は旅のメイン、エスコンフィールドで日本ハム VS オリックスを観戦。最終日、著名な彫刻家が手がけたモエレ沼公園で北海道の自然を満喫し、二条市場でお土産を爆買い。昼は隠れた名店のスープカレーで汗だくになり、札幌駅で S 先生とお別れ。食べて飲んで歩いて、健全なる二泊三日の親爺たちの旅は終了。今回、飛行機のオンラインチェックインに初めて挑戦した。今や何でもスマホで事足りる時代。切符もチケットも不要で、飲食も買い物もキャッシュレスが多く、交通系 IC カード（Suica や PASMO）が役立つことも分かった。球場でビールを飲んでも、駅の改札を通っても、カードを出して「ピッ!」てやれば全て OK。最初は「どうすんの?」と焦ったが、旅のおかげでちょっぴりできる親爺気分を味わった。



短時間再任用最終年

鷹巣地区 村 上 尚 子

「家事がゆっくりとできる。手芸や料理の時間もとれそう。時々、旅行にも出かけたいなあ。」
50歳位までは、自分の退職後の生活をこんな風にイメージしていました。でも、現実はいろいろな事情もあって、短時間再任用として仕事を続けることにし、再任用4年目の今に至っています。

午前中の勤務なので、時間にも気持ちにも余裕をもって生活できているのは、私のイメージ通りです。小学生の元気な声を毎日聞くことが出来るのも、やっぱりいいものです。教材研究で頭を悩ませるのも少しは刺激になっているのか、この4年間で健康に過ごすことが出来ました。

こんな再任用生活も、最終年となりました。来春からは、いよいよ心待ちにしていた退職後の生活が始まります。学校から離れた途端に体調を崩してしまったということにはならぬよう、準備をすすめていきたいと思っているこの頃です。



新しい学びとの出会い

鷹巣地区 柴 田 清 香

7月から、北秋田市教育委員会で教育・保育アドバイザーとして勤務させていただいています。一昨年、初任者研修指導教員として努めさせていただいた時は、30数年間の教職生活の引き出しから様々なものを取りだし、整理をしていくような感がありましたが、今回の仕事はまさにリスキング。新しい知識やスキルを必死に「新しい引き出し」に入れながら、汗をかきかき奮闘する毎日です。

そんな中であって背を押してくれるのは、やはり訪問先で出会う子どもたち。つぶらな瞳を輝かせて、「見て！ ～したんだよ！」「～を見つけたよ！」と教えてくれる子どもたちと、新しい発見や気付き・学びを共有できる喜びを感じる日々でもあります。新しい学びとの出会いに感謝し、必要とされる役割を探しながら、誠実に歩みを進めていきたいと思うこの頃です。



安全・安心な時代を願い、緩やかに時の流れを楽しみながら

鷹巣地区 柴 田 保

大館北秋田退職校長会結成50周年おめでとうございます。退職4年目にして平日2日間の休みをいただき、天気と緩やかにかかわりながら日中の時間の使い方を算段して過ごすことに少しずつ馴染んできました。今は、庭の花を選別したり、低木を選定したり、草むしりをしたり、物置小屋から工具を取り出したり…雨と太陽という栄養をいっぱい吸った雑草と格闘しながら、庭造りの夢を少しずつ膨らませているところです。

夢を手伝ってくれるのがネット検索です。草花の名前、除草用具・除草剤・除草シート、敷石レンガ、樹木の剪定、苔、ロープの結び方…庭づくりのためにYouTube等を見る所要時間はとにかく増えました。学校では、学校と保護者との連絡手段もデジタル化され、お便り、体温、出欠等の連絡も行われるようになりました。

ネット文化の急速な進展についていけない自分もいますが、情報や時間の選択を楽しみながら、なりなりに一つ一つの夢の実現に向かっていきたいと思っています。



日々発見

鷹巣地区 木 下 隆

人生を三段跳びに例えると、ホップが楽しかった幼小中高大学時代。ステップが目の前のことに精一杯であった教職時代。ジャンプが日々発見の退職後。退職3年目の今、初めて知った上位5つを紹介します。

その1～両親の世話を通して、歳を重ねて生きることを知る。

その2～実家の山林や畑を管理するための機械等の使い方を知る。

その3～種から育てる家庭菜園やガーデニングの楽しさを知る。

その4～東野圭吾⇒堂場瞬一作品の読破を通して、推理小説の深さを知る。

その5～認定心理士単位取得を通して、体系的な知識取得の必要性を知る。

お陰様で、実家（田代）や居住地（鷹巣）の皆さんとともに、地域の中で楽しく過ごしています。ホップ・ステップ・ジャンプ・コロリの人生を目指して。



シン・働く理由

大館地区 安 部 芳 範

新聞に「人はなぜ働くのか」の理由3つが書かれていた。①食うため、②はた（端）をらく（楽）にする、③働かないと「暇と退屈」だ。…なるほど、なるほど。

父親の残した田んぼ（88a）に本腰を入れたのが退職まで2年を切った夏。勤務の合間を縫ってコンバインでの稲刈り、カントリーへの出荷、乾燥機や籾摺り機と格闘しての袋詰め作業。退職ラストイヤーは、春の土作りからの田植え、そして、朝夕の水の管理をほぼ毎日。退職してからは、ビールのおいしさが増し増しとなり、いくらか余裕のできた3年目だったが、記録的な猛暑に心も折れそうに。そして今年は新たに大館市スポーツ少年団の事務仕事と稲作との二刀流の生活。

そんな夏のある日、左の肩甲骨付近に激痛が走り、左手のしびれとマヒ。「首のヘルニアです」と言われ、即入院&手術。手術のやり直しもあって、“軽井沢”での療養も7週間（四十九日）に！

思うに、人は休むために働いているのかもしれない。さて、そろそろ働こうっかな…。



初任地の田代冬季分校

大館地区 伊 藤 哲 朗

中滝小学校田代冬季分校での宿直が思い出されます。木枠の窓なので秋に目張りしますが、宿直室には雪が入り込んできました。何しろ、平均の最低気温は零下20度です。一番冷えたのが3月の卒業式で、零下32度にもなりました。

学級は4人の複式で、子どもらは朝早く牛の世話をしてから登校していました。ペットはムササビやテンで、何度も学校に持ってきて見せてくれました。

宿直していると、月に一度の移動販売が楽しみで、食料だけでなく衣類や文房具も持ってきてくれました。水は沢水で、凍結防止のため出しっぱなしです。が、たまにヤマヒルが詰まり大騒ぎになりました。

電気や電話のない家庭もたくさんあり、驚くことばかりでしたが、この3年間で、「教師の性根」をつけてくれたのだと思っています。

令和6年度

新入会員の紹介

今年4月から定年延長となり、昨年度末で校長職を退任した方々を紹介します。

「校長職を終えて」思うことを自由に綴っていただきました。

【新入会員氏名】（校長職退任時の勤務校）

北 林 孝 男	（大館市立早口小学校）
松 下 健	（大館市立山瀬小学校）
出 川 英 章	（北秋田市立米内沢小学校）
渡 邊 政 徳	（秋田県立大館鳳鳴高等学校）
花 田 一 雅	（大館市立城西小学校）
鎌 田 裕 之	（秋田県立比内支援学校）
福 司 登志子	（大館市立城南小学校）
庄 司 保 雄	（大館市立桂城小学校）
今 川 拓	（秋田県立大館桂桜高等学校）
小 林 秀 雄	（北秋田市立鷹巣中学校）
佐 藤 博 志	（北秋田市立鷹巣小学校）



また新たな気持ちで……

田代地区 北 林 孝 男

私たちの世代は、定年延長・役職定年制度が始まった記念すべき一期生です。その人によりますが、私はスッと退職できず、教諭として、算数の少人数指導（TT）という立場で以前にも在籍した城南小学校にお世話になっています。日々頑張る同僚の姿から学級担任の大変さを、そして私自身が授業できる喜びを、改めて感じている毎日です。

現任校は二度目の赴任ですが、児童数が大幅に減り、子どもが変わり、保護者の考え方も変わったと感じています。かつて熱く指導した部活は「スポ少」となって、大会に応援に行くだけになってしまいました。変化で残念な面はありますが、ICTは以前はなかったもので、新鮮です。私は不得手なので、子どもたちから教えてもらい、それはそれで楽しいです。私はすっかり年を取り、校舎は以前のままですが、日々新たな発見があります。北林がいてよかったと思ってもらえるよう、今後も新たな気持ちで毎日通勤します。



校長職を終えて

大館地区 松 下 健

役職定年で校長職を終えましたが、定年までラスト1年、4月から城西小学校で特別支援学級（自閉症・情緒障害）の担任として勤務しています。これまで校長職を振り返る余裕もなく、この原稿を書いている今、思い出している状況です。そう言えば、日々の仕事で大量の文書を見たり、決済をしたりすることがなくなりました。市教委等からのメールも自分のパソコンに来ません。その点は楽になりました。ただ、これまでの習慣で失敗もありました。出席簿の入力の仕方を覚え、印刷した用紙に担任が押印しますが、4月は何のわだかまりもなく校長のところに押印をしてしまいました。その後は気を付けています。

初めての特別支援学級担任となり、比内支援学校に教頭として勤めた経験を生かして頑張ろうとしていますが、一人学級でもうまくいかないことが多く日々勉強です。3月までには子どもを少しでも成長できるよう支援し、定年退職を迎えたいと思っています。



地域の住人として

鷹巣地区 出 川 英 章

「学校って忙しいですね。」という言葉に甘え続けて数十年。これまで土日も勤めていた学校やその周辺にいたので、自分の住む地域の活動に対して何かと不義理をすることも多く、申し訳ないとずっと思っていたのですが、60歳を機に自分の住む自治会の役員に加えてもらいました。環境整備や各種の集金など活動は様々行っていますが、そうした中で思い知らされたことが、みんなが年齢を重ねたという現実です。何をするにも参加する方のほとんどが私よりも年上です。私自身は現在定年延長ということで、小学生を相手にしていて普段は元気いっばいの声に包まれているので高齢化ということを忘れていますが、学校を支える地域はやはりたいへんです。この後、地域の住人としてどのようにお世話になった学校に協力できるかについても考えながら、他の先生方に迷惑をできるだけかけないように残りの学校生活を過ごしていきたいと思っています。



念願の山行

大館地区 渡 邊 政 徳

この夏、30年ぶりに北アルプスへと向かった。部活動指導や子育てに忙しかった教諭時代、学校経営や対外的雑務に追われた管理職時代、なかなか山に気持ちが向かうことがなかった。

目指したのは槍ヶ岳。上高地から時折雨に見舞われながら、約6時間かけて槍沢ロッジにたどり着く。翌朝は雨が上がり、気持ちは晴れやかに、足は大小の岩や石にもつれながら、4時間半を費やし、山頂直下にある槍ヶ岳山荘に着く。霧がはけて槍ヶ岳が姿を現す。その尖鋭的山容はまさに「槍」である。そこから頂上を目指す。手足を駆使し、岩を乗り越え、鎖を手繰り、垂直に掛けられた梯子を登り、遂に頂上に到達する。3180m。霧の切れ目から、周囲を臨む。開けたカール、切れ込んだ谷、高さを競う山々、ここでなければ得られない景色…

山行であれ、旅行であれ、生徒と毎日接する学校の先生方にこそ出かけてもらいたい。そこで目にするもの、感じるものを生徒に伝えたり、教育の在り方を考える参考にしたりしてもらいたいと思う。そのためには日々仕事に追われる生活ではなく、時間的にも精神的にも余裕をもった生活が望まれる。様々な教育改革の中で、教員の生活の質の向上を求めたい。



子どもの成長をともに喜ぶ幸せ

大館地区 花 田 一 雅

私たちの代から定年が61歳まで延長になりました。これまで退職される校長先生を見送りながら、自分も同じように退職するものだと思っていましたので、校長として引退をするのか、もう1年頑張るかについては本当に悩みました。同級生とは「どうすることにした？」と会うたびに情報交換をし、引退する人と継続する人が同じくらいであることが分かったので、不安もありましたが継続を選択しました。4月から花岡小学校の自閉症情緒学級の担任として、1年生1名と新しい生活をスタートしました。入学式では担任として子どもと手を繋いで入場しました。30年以上も前に1年生の担任をした時以来でしたので、少し照れ臭かったです。毎朝、子どもを玄関で保護者から引き受け、連絡帳を通して日々の成長を伝えられることが、今は楽しくて仕方ありません。子どもの成長をともに喜ぶことができるこの職場で、もう少し頑張ってみたいと感じている今日この頃です。



校長職を終えて

大館地区 鎌田 裕之

比内支援学校を役職定年し、この4月より横手支援学校に勤務しています。横手支援学校では、高等部3年生の学級担任となり、年の差40歳以上の生徒達、ブランク20年以上の学級経営及び授業という現実、日々、戸惑うこと、できないことの連続ですが、来春の「自立と社会参加」を目指して頑張っています。

現在は、生徒一人一人の実態や特性等もだいぶ分かってきて、これまでの全校児童生徒を見守るということから、目の前の生徒達と共に学習する、一緒に活動する楽しさを感じることができるようになってきました。

「横手が舞台」という本校地域活動のキャッチフレーズがあります。私も、生まれ故郷である横手を舞台に、「比内の気持ち」を忘れることなく頑張っていきたいと思っています。



もう一度、楽しむ

大館地区 福司 登志子

60歳までがんばればゴールを迎えられる！とずっと思っていたのですが、ちょうど定年延長スタートの年に60歳を迎えることになってしまいました。それ以降の働き方の選択肢が増えたわけですが、この4月からは、定年前再任用短時間勤務として算数TT、図工・音楽の専科を務めています。これまでとは違う立場、生活リズムにも慣れてきたところです。先生方と授業の進め方を話し合ったり、宿題の丸付けをしたり、教材研究で絵筆をとったりしていると、若かった頃に戻ったような気がしています。授業をイメージしながら教具を作ること、子ども一人一人の顔を思い浮かべて丸付けをすること、若い担任の悩みを聞きながら「うん、わかる～。そうだね。」とわずくこと、どれも懐かしい感覚です。限られた時間の教員生活、初心に帰り、子どもたちと一緒に学ぶことをもう一度楽しみたいと思っています。



初任者の覚悟

大館地区 庄司 保雄

私は、61歳が定年退職の学年ですが、60歳で退職して、小学校5校6名の初任者の校内研修を担当しています。近年の教員採用試験は、受験者が減少していて秋田県の小学校の採用倍率は1.0倍になりました。受験者が減る要因の一つに、教員の長時間労働の実態が問題視されたことがあると思います。2017年の週刊誌で、「学校はブラック」と掲載されたことも記憶に残っています。長時間労働の改善、多忙化の解消に取り組んできましたが、依然として、多忙な状況は続いており、学校の抱える問題は複雑化・困難化しています。多くの学生は、このような状況を知っていて、教職を目指すことを躊躇するようです。それでも、教職を目指して教職人生をスタートした初任者には、相当の覚悟があるように思います。少なくとも、私の担当している6名にはその覚悟を感じます。きっと、教師の抱える困難さよりも「教師の魅力」が勝っているからでしょう。初任者が教師の魅力を存分に感じながら、成長していく「初任研」にしようと努力している退職1年目です。



自転車漕ぎながら

大館地区 今 川 拓

結成 50 周年の節目に、大館北秋田退職校長会の一員に加えていただきましたこと誠に光栄に存じます。校長職にあった 5 年間、コロナ禍をはじめ前代未聞の状況への対応が求められました。定年延長もその一つ。役職定年をもって職を退き、「充電期間」と称してこの先何ができるか思案中です。まず健康寿命を延ばそうとクロスバイクを購入しました。朝な夕なに花輪線や東北自動車道のガード下をくぐり、田んぼ道を走らせています。曲がれる角は曲がり、進めるかぎり進む試行錯誤の末開拓したルートでは、道端の草花、稲の成長、ネギ畑の香り、さらに鳥のさえずり、カエルの合唱や虫の声に季節の移ろいを感じる一方で、人気の絶えた校舎の横を通るたび、時の残酷さを思わずにいられません。川や線路に行く手を阻まれ、近くて遠い向こう側を望む時、「分断」の 2 文字がよぎります。先人は橋を架け、踏切やガードをこしらえることで乗り越えてきました。心に橋を架け互いを繋ぐことも教育の一環と捉え、己のなすべきことを見つめ直したいと考えています。



変わらぬものと変わるもの

鷹巣地区 小 林 秀 雄

今年度、教諭として大館市立第一中学校にお世話になっています。15 年ぶりに音楽の授業を担当し、部活動では吹奏楽部員と一緒に活動してきました。

音楽教師として最も気合いが入る合唱祭。生徒はベストの演奏を目指して練習に励んでくれました。特に 3 年生は気合い十分。最後の合唱祭での最優秀賞を目指して日々変化していきました。生徒の成長を間近で感じられるのはとても嬉しいということを再確認しました。ほとんどの学校では 3 年生の吹奏楽部員は学校祭での演奏をもって部活動を終了します。そんな中で、3 年生の最後の演奏を指揮できる喜びも久しぶりに味わいました。

私の年代から定年が延び働き方が変わっています。また、生徒や学校を取り巻く環境も変化してきました。タブレットを使った授業、生徒や保護者の意識など、学校生活の中で変わりゆく教育環境を実感することも多いです。それでも、毎日の状況を楽しんでいる自分がいます。



節目の年に当たって

鷹巣地区 佐 藤 博 志

役職定年を一区切りに退職し、学校オンリーの生活から離れ、園や学校等に少々関わりながら児童福祉を中心に学び直しをしているところです。現在の業務から在職時を振り返ると、諸先輩方及び同僚の皆様、並びに学校関係の皆様を包括する協働体制に支えられてきたことにとっても感謝しています。

外国語教育に携わってきて、日本の子どもたちの姿が随分変わってきたように感じます。今夏のオリンピック・パラリンピックでの日本人選手・関係者、とりわけ若い人達の姿に驚きました。外国語でのインタビューにやり取りしている姿、自分の言葉で自信をもって思いを発信している姿、更なる修練で海外を拠点にしていることなど、「グローバル化」という言葉を意識しない時代になりました。

当会発足の 50 年前は小学校中学年で、在籍校の体育館で大文字踊りの練習が始まり、その大文字祭りは市民の参加でよき伝統として定着しています。社会や学校は伝統とともに新時代への適応・進化が常です。子どもたちと子どもたちを支える学校現場を応援する一人でありたいと思っています。

結成 50 周年記念事業

I 記念式典

日時 令和 6 年 11 月 30 日 (土) 13 時 30 分～14 時 30 分
会場 プラザ杉の子 3 階 飛天の間

式 次 第	
1 開式のことば	副会長 菅 原 明 雄
2 物故者に黙祷	
3 式 辞	会 長 伊 勢 善 和
4 来賓祝辞	秋田県退職校長会会長 伊 藤 栄 二 様 秋田県教育庁北教育事務所所長 佐々木 長 則 様 大館市教育委員会教育長 高 橋 善 之 様
5 来賓紹介	
6 50年の歩み	事務局長 佐 藤 久 生
7 長寿者への記念品贈呈	
8 閉式のことば	副会長 菅 原 明 雄

II 記念講演

14 時 40 分～15 時 50 分

記 念 講 演	
1 講師紹介	
2 記念講演	演 題 「地域と共に歩み、そして生きる」 講 師 株式会社 花 善 八代目代表取締役社長 八木橋 秀 一 氏
3 お礼のことば	会 長 伊 勢 善 和

III 記念事業

大館北秋田退職校長会「50周年記念誌」発行 (A 4 判 44 ページ)

IV 祝賀会 (2 階 芙蓉の間)

16 時 00 分～18 時 00 分

会 次 第	
1 開会のことば	
2 主催者あいさつ	副会長 小笠原 友 行
3 来賓祝辞	上小阿仁村教育委員会教育長 高 橋 充 様 大館北秋田校長会会長 武 田 俊 一 様 北秋田市教育委員会教育長 佐 藤 昭 洋 様
4 乾 杯	
5 祝 宴	
	・長寿者あいさつ
6 万歳三唱	顧 問 小 林 茂 様
7 閉会のあいさつ	副会長 明 石 勝 美

結成 50 周年記念講演

講師紹介



演 題 「地域と共に歩み、そして生きる」

講 師 株式会社 花 善

八代目代表取締役社長 八木橋 秀 一 氏

【講演要旨】

- 1 自己紹介&会社紹介
- 2 駅弁業界の現状
- 3 フランス進出の話（理由と苦労話など）
- 4 地域との関わり / 地域貢献とは？
- 5 メインテーマ『これから描いている花善の歩み』
- 6 質疑応答

【講師 八木橋秀一氏 プロフィール】

- ・昭和 51 年 2 月 25 日生 48 歳
- ・家族 母（花善：会長職）、妻（花善勤務）
長男（ボディビルダー）、長女（大学生）、次男（中学生）
- ・学歴及び職歴
 - 昭和63年 中野区立昭和小学校 卒業
 - 平成 3 年 國學院大學附属國學院久我山中学校 卒業
 - 平成 5 ～ 6 年 コンビニサンクス アルバイト勤務
 - 平成 6 ～ 7 年 居酒屋鳥新（お寿司&焼き鳥）勤務
 - 平成 7 ～ 9 年 弁当屋ユーマート東中野店 勤務
 - 平成 7 ～ 9 年 プロレス団体 勤務
 - 平成 9 年 株式会社 花善 就職
 - 平成12年 株式会社 花善 常務取締役 就任
 - 平成24年 株式会社 花善 八代目代表取締役社長 着任
 - 平成30年 SAS ParisHanazen 創業及び代表着任
 - 令和元年 常設路面店 1899ToriMeshi 開業
 - 令和 3 年 EKIBEN ToriMeshiBento 駅店舗開設
 - 令和 6 年 冷凍駅弁輸出ビジネス開始

編集後記

大館北秋田退職校長会結成 50 周年記念誌をお届けします。昭和 49 年に結成してから 50 年、「平成」の時代を経て「令和」へとつなぎ、半世紀を迎えました。本誌の刊行にあたり、秋田県退職校長会会長 伊藤栄二様、大館北秋田校長会会長 武田俊一様から玉稿を賜りました。厚く御礼申し上げます。

記念誌の構成については、これまでの記念誌同様、本会の 50 年間を振り返る「50 年の歩み」と「会員の寄稿文」を柱に編集しました。なお、例年発行していた会報については、今年度は休止とし、活動内容や新入会員の紹介などは記念誌に組み入れ、一冊にまとめました。

「50 年の歩み」を振り返ると、結成された昭和 49 年は会員数 148 名でスタート、平成 11 年（25 周年）と 16 年（30 周年）には 313 名まで増えましたが、その後、徐々に減少し、今年度は 222 名です。この傾向は今後も続いていくことでしょう。平均年齢は現在 75 歳を超え、名誉会員数は毎年約 40 名ほどになっています。叙勲受章者や長寿者（傘寿）の方々も「50 年の歩み」に記しております。誠におめでとうございます。

本会の活動で大事にしている会として、3 年ごとに開催している「現職校長との合同研修会」があります。第 1 回は昭和 58 年でした。退職校長と現職校長がそれぞれ発表し意見交換、その後、親睦を深める会です。互いに刺激と示唆をもたらす会であると強く感じます。来年度はその合同研修会の年に当たります。今から楽しみです。

「会員の寄稿文」については執筆依頼の人選をせず、新型コロナが蔓延し総会も研修会も中止となった令和 2 年度発行の会報 15 号からスタートした「会員からの声～短信」（寄稿文）にならない、全会員に案内を差し上げ、寄せられた寄稿文を全て掲載しました。執筆に当たっては「退職後の豊かな生きがいをもとめて」を踏まえ、題材などは自由に選んでいただきました。新入会員へは「校長職を終えて」思うことを自由に綴っていただきました。寄せられた 46 名の寄稿文を全て紹介しております。退職後はそれぞれの生活基盤を大事にしながら、また自身が求める目標に向かって充実した日々を過ごされていると感じました。

記念誌の表紙・裏表紙については木村伸氏、会員の寄稿文の「挿し絵」については和田克郎氏より作品をご提供いただきました。ありがとうございます。

最後に、本会へのご協力とご寄稿くださいました皆様に感謝申し上げますとともに、皆様のますますのご健康とご活躍を祈念し、50 周年記念誌の編集後記といたします。

（事務局長 佐藤 久生）

記念事業実行委員会

委員長（会長）伊勢 善和

副委員長（副会長）小笠原友行

委員（監事）辻 博幸

（理事）谷川原勝則

滝内 金悦

成田 新悦

伊藤 康栄

村上 光明

（事務局）佐藤 久生

柴田 保

菅原 明雄

福田 眞

五十嵐 経

小笠原茂人

戸田 孝彦

中嶋 俊彦

工藤 隆

佐藤 和広

明石 勝美

安部 公作

河田 和徳

小林 一彦

安部 芳範

佐藤 和博

庄司 邦昭

小松大二郎

青柳 正隆

永井 孝久

和田 克郎

寺田 博明

杉渕富喜郎

庄司 弘

令和6年度

大館北秋田退職校長会

会 員 名 簿

令和6年4月1日現在

大 館 地 区	119名	比 内 地 区	12名
田 代 地 区	9 名	鷹 巣 地 区	54名
合 川 地 区	11名	森 吉 地 区	12名
阿 仁 地 区	2名	上小阿仁地区	3名
会 員 総 数			222名

役 員 名 簿

役 職	氏 名
会 長	伊勢 善和（県副会長）
副 会 長	小笠原友行（県代議員） 菅原 明雄（県代議員） 明石 勝美（県代議員）
監 事	辻 博幸 福田 眞 安部 公作
事務局長	佐藤 久生（県代議員）
幹 事	佐藤 和広 小松大二郎 庄司 弘 柴田 保
理 事	<大館>谷川原勝則 五十嵐 經 河田 和徳 青柳 正隆 滝内 金悦 小笠原茂人 小林 一彦 永井 孝久 成田 新悦 戸田 孝彦 安部 芳範 <比内>和田 克郎 <田代>伊藤 康栄 <鷹巣>中嶋 俊彦 佐藤 和博 寺田 博明 村上 光明 <合川>工藤 隆 <森吉>庄司 邦昭 <上小阿仁>杉渕富喜郎
顧 問	畠山 清輝 佐藤 俊雄 澤井 邦彦 小林 茂

会 員 名 簿

【大館地区①】

No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考	No.	氏 名	備 考
1	齋藤 久志	名誉会員	21	工藤 徳子		41	渡部 尋子	
2	日景 久吉	名誉会員	22	菊地 嘉男		42	清野 克子	
3	田村 茂勝	名誉会員	23	内藤 捷美		43	澤井 康子	
4	成田 治郎	名誉会員	24	仲澤 鋭藏		44	滝沢 勝秋	
5	山田 信雄	名誉会員	25	清野 宏隆		45	遠藤 昭男	
6	畠山 清輝	顧問・名誉	26	松本 隆文		46	安藤 一	
7	小林孝四郎	名誉会員	27	若松美奈子		47	中田 綾子	
8	森岡 昭	名誉会員	28	澤井 邦彦	顧 問	48	小笠原信子	
9	田畑 耕造	名誉会員	29	樋口 新平		49	谷川原勝則	理 事
10	福司 有一	名誉会員	30	伊藤 興治		50	小林 礼子	
11	今川 孝一	名誉会員	31	菅原 準一		51	小林 敏明	
12	関口 慎一	名誉会員	32	小西 朝昭		52	菊地さとし	
13	浅野 英徳	名誉会員	33	工藤 康平		53	日景 博幸	
14	栗田 修六	名誉会員	34	堀口 節子		54	高谷 松英	
15	小林 俊英	名誉会員	35	高橋 宏司		55	高橋 秀一	
16	佐藤 俊司	名誉会員	36	大道 政敏		56	羽賀 順子	
17	佐藤 俊雄	顧問・名誉	37	杉本富吉郎		57	藤原 和平	
18	蔦谷 睦雄		38	桑野富貴子		58	菅原 明雄	副会長
19	佐々木 淳		39	中田 稔		59	伊勢 善和	会 長
20	成田 富蔵		40	大道 美代		60	花田 千明	

【大館地区②】

No.	氏 名	備 考
61	辻 博幸	監 事
62	高橋 善之	
63	菅原 晶子	
64	五十嵐 經	理 事
65	福田 眞	監 事
66	石岡 文芳	
67	庄司裕見子	
68	河田 和徳	理 事
69	田山 義貴	
70	伊東 篤	
71	畠澤 正義	
72	石岡ひな子	
73	貝森 登	
74	佐藤 久生	事務局長
75	高橋 謙介	
76	米澤 幸男	
77	三浦 孝志	
78	佐藤 和広	幹 事
79	青柳 正隆	理 事
80	木立 亨	

No.	氏 名	備 考
81	田中 真愛	
82	小松大二郎	幹 事
83	立石 隆博	
84	三浦 玲子	
85	根田 敬一	
86	長岐 祐輔	
87	滝内 金悦	理 事
88	花岡 郁男	
89	今泉 静子	
90	渡邊 一夫	
91	小林裕実子	
92	庄司 弘	幹 事
93	小笠原茂人	理 事
94	小林久美子	
95	佐藤 正好	
96	工藤 隆博	
97	小林 一彦	理 事
98	永井 孝久	理 事
99	大丸ふさ子	
100	青山 仁	

No.	氏 名	備 考
101	成田 新悦	理 事
102	小林 寿	
103	戸田 孝彦	理 事
104	木村 伸	
105	根本 光泰	
106	蛇川真喜子	
107	伊藤 哲朗	
108	片岡 俊仁	
109	六部 勇二	
110	安部 芳範	理 事
111	田山 淳	
112	貝森 逸子	
113	松下 健	
114	渡邊 政徳	
115	花田 一雅	
116	鎌田 裕之	
117	福司登志子	
118	庄司 保雄	
119	今川 拡	

【比内地区】

No.	氏 名	備 考
1	安達 正直	名誉会員
2	水野 哲哉	名誉会員
3	佐々木忠治	
4	宮越 禎子	
5	佐藤 郁生	
6	和田 克郎	理 事
7	佐藤喜美子	
8	米澤喜一郎	
9	引地フミ子	
10	菊地 俊策	
11	津谷 義仁	
12	高松 修二	

【田代地区】

No.	氏 名	備 考
1	片岡 春雄	名誉会員
2	浅利 司	名誉会員
3	高坂 浩	名誉会員
4	北林 良英	名誉会員
5	近藤 巧	
6	小笠原友行	副会長
7	片岡 精子	
8	伊藤 康栄	理 事
9	北林 孝男	

【鷹巣地区】

No.	氏 名	備 考
1	高田 政男	名誉会員
2	嶺脇 勉	名誉会員
3	近藤 正	名誉会員
4	伊藤 保之	名誉会員
5	松田 孫明	名誉会員
6	佐藤 三七	名誉会員
7	出川長五郎	名誉会員
8	伊藤 克男	
9	五十嵐寛一	
10	今野富士夫	
11	小坂 浩子	
12	工藤 栄臣	
13	高橋 忠俊	
14	畠山 忠明	
15	高橋 陽子	
16	長岐 純一	
17	秋元 哲夫	
18	勝又 立雄	
19	小林 茂	顧 問
20	佐藤 敬子	

No.	氏 名	備 考
21	永井 高道	
22	河田 罔彦	
23	三澤 仁	
24	永井 弘子	
25	津谷 正俊	
26	出川 幸三	
27	松尾 昭	
28	武藤 優悦	
29	澤田眞理子	
30	佐々木久隆	
31	高橋 充	
32	中嶋 俊彦	理 事
33	明石 勝美	副会長
34	佐藤 和博	理 事
35	寺田 博明	理 事
36	成田 葉子	
37	成田 榮樹	
38	神成 寿寛	
39	佐藤 洋子	
40	嶋田 美香	

No.	氏 名	備 考
41	村上 光明	理 事
42	藤嶋 勇人	
43	村上 尚子	
44	柴田 清香	
45	柴田 保	幹 事
46	河田 弘幸	
47	山本 泉	
48	木下 隆	
49	山本 英幸	
50	村上 清秀	
51	中村 修	
52	出川 英章	
53	小林 秀雄	
54	佐藤 博志	

【合川地区】

No.	氏 名	備 考
1	武石 美作	名誉会員
2	山岡多郎右ヱ門	名誉会員
3	津幡 進	名誉会員
4	櫻田助十郎	
5	宮野 正子	
6	仲村 吉光	
7	松橋 正信	
8	杉渕 好子	
9	安部 公作	監 事
10	工藤 隆	理 事
11	佐藤 昭洋	

【森吉地区】

No.	氏 名	備 考
1	細田松太郎	名誉会員
2	佐藤昭二郎	名誉会員
3	三浦多加稔	名誉会員
4	金 新佐久	名誉会員
5	佐々木邦夫	名誉会員
6	桂 邦夫	
7	奥田 稔	
8	木村 義孝	
9	北林 强	
10	庄司 邦昭	理 事
11	武石 祐子	
12	武石 弘美	

【阿仁地区】

No.	氏 名	備 考
1	佐々木 茂	名誉会員
2	松岡 善則	名誉会員

【上小阿仁地区】

No.	氏 名	備 考
1	伊藤 明美	
2	杉渕富喜郎	理 事
3	山田 俊逸	

大館北秋田退職校長会
四十五周年記念誌



2019年 (令和元年)

45周年記念誌 (2019年)

表紙絵 佐々木久隆氏
表紙題字 佐々木忠治氏

大館北秋田退職校長会
四十周年記念誌



2014年

40周年記念誌 (2014年)

表紙絵 浅野英徳氏
表紙題字 福岡清氏

大館北秋田退職校長会
三十五周年記念誌

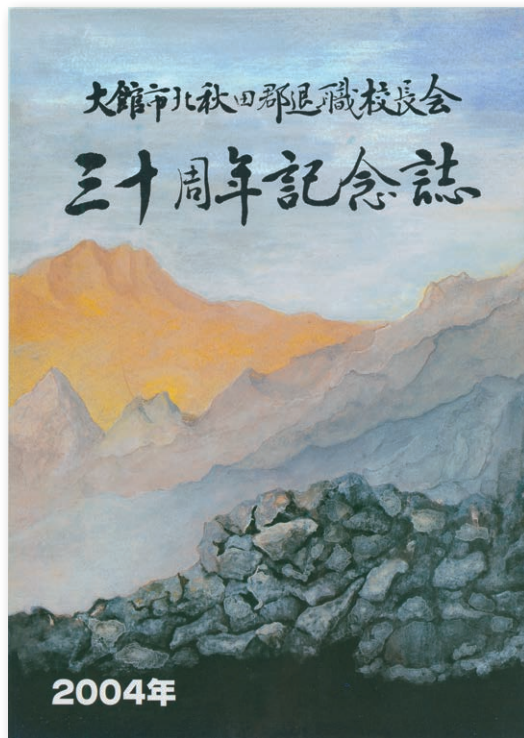


2009年

35周年記念誌 (2009年)

表紙絵 岩崎清三氏
表紙題字 蔦谷睦雄氏

大館市北秋田郡退職校長会
三十周年記念誌



2004年

30周年記念誌 (2004年)

表紙デザイン 小川四朗氏
表紙題字 赤石隆夫氏



25周年記念誌（1999年）

表紙デザイン 成田 晃一 氏

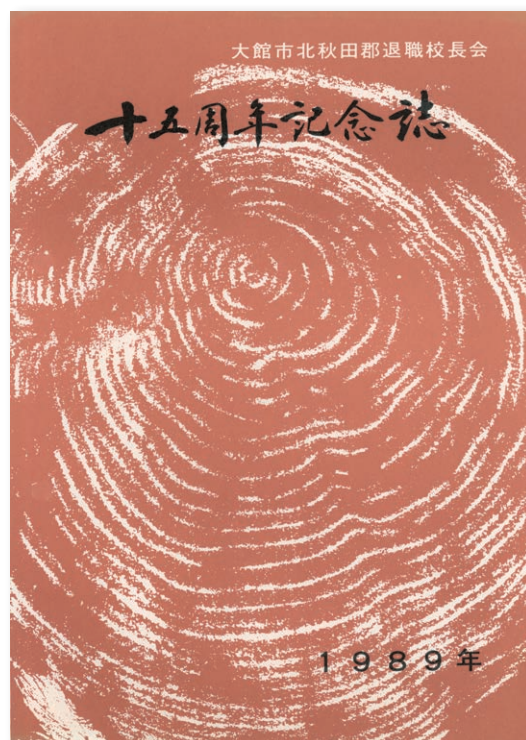
表紙題字 今川 孝一 氏



20周年記念誌（1994年）

表紙デザイン 辻 耿 氏

表紙題字 畠山 善三 氏



15周年記念誌（1989年）

表紙デザイン 辻 耿 氏

表紙題字 畠山 善三 氏

大館北秋田退職校長会
結成 50 周年記念誌

発行年月日 令和 6 年 11 月 30 日

発 行 者 大館北秋田退職校長会

印 刷 所 株式会社 成 文 社

50th
Anniversary
since 1974

